

## 2 汪兆銘のハノイ脱出から訪日まで

444

昭和14年4月1日

有田外務大臣より  
在香港田尻総領事宛(電報)

汪兆銘救出のため影佐一行ハイフォンに向け  
出発の予定について

本省 4月1日後10時10分発

(館長符號、極秘)

貴電第三八九號ニ關シ

影佐(糖業聯合會廣東出張員河村定雄トス)ハ犬養健(同シク伊澤檢一トス)ヲ同行シ山下汽船ノ北光丸ヲ本件工作ノ爲特別ニ仕立テ八日三池ヲ出帆シ一路海防ニ向ヒ十六日同地着ノ予定(同船ハ佛印ニテ臺灣拓殖ノ鐵鑛ヲ積取リ復航スルコトトシ他ヨリ特殊任務ヲ推知サレサル様工夫シアリ)ナルニ付テハ右高宗武ニ傳言アリ度

尙興亞院矢野書記官ヲシテ本件工作ニ關シ貴官及影佐ヲ補助セシムルコトナリ(兼任領事トシテ貴館在勤トス)五日空路上海ニ赴キ最近船便ニ依リ貴地ニ向フ筈ナルニ付テハ

十六日前二河内ニ到着シ得ヘキ汽船又ハ飛行機ヲ留保シ置カレ度

本件ニ關スル河内ヘノ通報振ハ追テ措置スル筈ナリ



445

昭和14年4月4日

在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

宋子文・宋美齡の汪暗殺計画等に関する伊国

総領事内話

香港 4月4日後発  
本省 4月4日夜着

第四二〇號(極秘、館長符號扱)

伊太利總領事ノ極秘内話ニ依レハ一日夜宋子文、美齡等密議ノ結果佛印當局トノ内部聯絡及汪ニ對シ最後のニ外遊勸告ノ爲特使二名ヲ河内ニ派遣スル一方汪ノ暗殺計畫ヲ進ムルコトナレル由、出所ハ確實ト認メラル今井ニ傳ヘラレタシ

上海へ轉電アリタシ

446 昭和14年4月6日 在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

平沼首相と汪兆銘との間に秘密協定成立との

大公報紙報道について

別電 昭和十四年四月六日発在上海三浦総領事より

有田外務大臣宛第九一六号

大公報の右報道内容

上海 4月6日後発  
本省 4月6日夜着

第九一五號

重慶發路透電ニ依レハ同地大公報ハ同日別電第九一六號ノ如キ平沼汪精衛間ニ妥協ヲ見タリト稱スル秘密協定及汪ノ基本的要求事項等ヲ發表シ本協定文ハ政府當局カ日本側通譯者某ヨリ入手シタルモノニテ右ハ汪ノ第三次聲明ニ徴スルモ立證シ得ヘシト斷シ其ノ社説ニ於テ本件ヲ論評シ汪及其ノ一派ニ對スル國府ノ處置振ハ餘リニ寛大ニ過キタリト爲シ此ノ種漢奸ハ宜シク嚴罰ニ處スヘシト論シ居レル處右

發表ハ從來國府當局カ汪ニ對シ終始其ノ和平政策ノ拋棄ト國民黨復歸方ヲ希望シ汪ニ關スル記事及汪排擊論評ヲ嚴禁シ居タル關係モアリ同地支那側各界ハ驚異ノ眼ヲ以テ之カ成行ヲ重視シ居レルカ此ノ種記事ノ解禁ハ國府カ汪ノ態度改變ニ對スル一切ノ希望ヲ拋棄シ且汪トノ合作提携ノ不可能ナルコトヲ明示スルモノニシテ斯ル事態ヘノ發展ハ汪ト其ノ一派ノ日本側ト交渉談判ハ時ニ公開的ニ進行セラレ遂ニ蔣當局ヲシテ汪ニ對スル希望ヲ斷念セシメタルコト竝ニ汪ノ第三次聲明ハ秘密文書ヲ公表シ且今後モ此ノ種發表ヲ繼續シテ威嚇スル惧アリ斯ル舉動ニ對シ政府當局ハ憤激シ汪カ自ラ國賊タルヲ願ハサル以上國家ノ機密ヲ漏洩スル權利モ名分モ立ツ筈ナシトノ見解ヲ懷クニ至レル爲ナルヤニテ同地一般人士ハ遠カラス汪及同派ノ懲戒處分案ヲ審議シ逮逮令<sup>捕</sup>ノ發出ヲ見ルヘシト信シ居ル趣ナルカ同地發UP電ハ消息通ノ談話トシテ重慶代表カ河内ニ赴キ汪ニ對シ旅券交付ノ際渡歐費二十萬元ヲ送リタルモ汪ハ之ヲ受ケス毅然トシテ余ハ金錢ヲ以テ買收セラルルモノニアラスト語リタルニモ拘ラス政府ハ猶汪排擊ノ舉ニ出テサリシカ今次ハ政府ニ於テ汪ヲ始メ高宗武、周佛海、陳公博等ノ通緝令發

表方考慮中ナル旨報シ居レリ

本電別電ト共ニ北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

### (別電)

上海 4月6日後発  
本省 4月6日夜着

### 第九一六號

#### 一、祕密協定

(一)速ニ汪ト近衛トノ和平ノ實施ヲ容易ナラシムル爲日本ハ中央政府カ其ノ軍隊ノ改變ヲ完成セサル以前ニ於テ左ノ軍事行動ヲ起スヘシ

(イ)北支ニ於テハ西安ヲ占據シ四川包圍態形ヲ採リ蘇支兩國間ノ交通ヲ遮斷スヘシ

(ロ)南支ニ於テハ南寧ヲ占據シ廣西省ノ反日感情ヲ抑壓スルト共ニ廣西及佛領印度支那間ノ交通ヲ遮斷スヘシ

(ハ)中支ニ於テハ長沙ヲ占據シテ湘贛鐵道ヲ横斷スルト共ニ襄陽及樊城ヲ占據シテ湖南、四川兩省ヲ制スヘシ

(ニ)日本カ前記計劃ヲ完了セハ汪ハ反共反蔣戰爭ヲ唱道シ汪

ニ於テ少クトモ二十個師團ノ兵力ヲ統御スル可能性アルコトヲ保障ス

(三)汪ハ責任ヲ以テ自ラ總裁ニ任シ且一切ノ反日及共產分子ノ撲滅ニ充分ナル實力ヲ具有スル反共救國同盟ヲ組織ス(四)日支間ノ和平友好關係ヲ回復スヘキ協定ヲ討議スヘシ但シ右協定ハ反共ノ原則ト汪及近衛ノ聲明ヲ以テ基礎トスルト共ニ總ユル反共團體ノ見解ヲ取入ルヘシ

(五)前記(二)及(三)實現ノ爲日本ハ汪ニ對シ毎月三百(萬)元ヲ支給スヘシ

尙高宗武ハ此ノ種提案ヲ携ヘ二月二十日上京シ平沼ト會見ノ上更ニ左ノ如キ具體的協定ヲ締結セル由ナリ

日本カ南寧、長沙、宜昌、沙市、襄陽、樊城及西安占領ノ際汪ハ別ニ聲明ヲ發シ既往ニ於テ包懷セル蔣介石ニ對スル和平交渉開始要請政策ヲ改メテ汪自ラ事態收拾ニ乗出スヘシ但シ日本ハ五、六月中ニ日本ノ擔任部分タル「プログラム」ヲ完成スヘシ又汪ハ國民政府打倒ノ爲日本ニ對シ襄陽及樊城ヨリ漢中ニ軍ヲ入ルト共ニ主力部隊ヲ以テ南昌ヨリ常德貴陽經由四川ニ進撃スルコトヲ要請ス

三、汪ノ基本的要求事項

日本ハ既ニ汪ニ對シ二回ニ亘リ約二百萬元ヲ給シタルカ  
汪ハ日本軍カ福州及潮州占據ノ際ニハ西南政府ヲ樹立シ  
更ニ日本ノ軍事行動擴大ヲ俟チ支那ノ擴戰<sup>（抗）</sup>軍隊ヲ漸次自  
解セシムル様工作スヘキ旨建言スル所アリタルカ汪ノ基  
本要求左ノ通り

(一) 維新及臨時兩政府ノ廢讓<sup>（ハイジヨウ）</sup>

(二) 南京ニ於ケル新國民政府ノ組織

(三) 反共救國同盟ノ設立

(四) 之カ費用トシテ毎月三百萬元ノ支給

(五) 反共救國軍トシテ十二箇師團ノ維持

(六) 二億元ノ軍事豫算借款設定

(七) 汪及日本間ノ協定ハ近衛聲明ヲ基礎トスルコト

(八) 支那ハ國際關係ニ於テ英、米、獨、佛、伊ト友好關係

ヲ保持スルコト

(九) 支那ノ防共協定加入

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

447

昭和14年4月8日

在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛（電報）

言論機關における汪兆銘と蔣介石との暴露戦  
は汪側に不利な状況との観測について

香港 4月8日後発

本省 4月8日後着

第四四二號

支那人側ニ於テハ汪ノ二十七日附聲明ハ蔣及要人ノ抗戰樂  
屋ヲ暴露シ各將領ノ蔣分離ヲ狙フト共ニ自分丈ケヲ惡者扱  
ニスル重慶ノ宣傳ヲ破壊シ國民ノ人氣ヲ繋キ將來ノ出廬ニ  
備ヘントスル底意ニシテ之ニ依リ少クトモ汪ノ國民ニ對ス  
ル立場ハ有利トナリタル一方出廬ノ決意ヲ窺知シ得ル次第  
ナル處重慶ハ右ニ對シ往電第四三七號ノ密約内容ト稱スル  
モノヲ發表シ汪ノ賣國行為ヲ一段ト強ク國民ニ印象セシメ  
汪ヲ政治的二葬リ去ラントスル態度ニ出テ今や汪、蔣間ハ  
暴露戰展開サレタルカ言論機關ニ於テ汪ハ極メテ不利ノ立  
場ニ在リト見居レリ御參考迄

上海へ轉電アリタシ

昭和14年4月8日

在上海三浦総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

## 平沼・汪秘密協定問題に関する論調報告

上海 4月8日後発

本省 4月8日夜着

## 第九二九號

往電第九一五號二關シ

七日ノ申報、譯報、中美、華美及文匯報ハ何レモ社説ヲ掲ケ汪平沼密約ハ實ニ吾人ノ意表ニ出テ狂氣ノ沙汰ナリトシ(申報)支那ハ過去ニ於テ幾多賣國奴ヲ出シタルモ之ヨリ甚シキモノナシ(文匯)トテ各紙共筆ヲ揃ヘテ汪ノ賣國反逆行爲ヲ責メ今日迄本件密約ニ關シ關係筋ヨリ何等否認ノ報ニ接セサルハ本密約ノ事實ナルヲ證スルニ足ルヘシ(申報)汪ハ元來節操ナキ人物ニシテ國ヲ外ニ自己ノ榮譽ヲ圖リ中國總理タラントスル迷夢ノ實現ヲ策シ其ノ機會ノ到ルヲ狙ヒ(文匯、申報、中美)居タルモノニシテ彼ノ昨年末來ノ言行ニ徴スルニ獨伊ニ媚フルノ風ヲ示スト共ニ英米ノ態度ニ何等言及スル所ナキハ他日是等ニ援助ヲ求メ以テ自己保全榮達ヲ企圖スル底意ナルヘク(申報)今次ノ密約ハ彼カ客臘和

平宣言發出以來ノ豫期ニ反シ國人ノ之ニ響應スル者ナク四圍ノ形勢不利ナルヲ看取シ遂ニ最後手段ニ出テタルモノナリト斷シ(中美)彼ハ既ニ九・一八以來日本特務機關ニ買收セラレ居タル注意人物ナルカ(華美)他方日本ノ對支政策ハ挑發離間ヲ以テ根本方針トスルコト過去幾多ノ事例アリ汪モ其ノ手ニ乘リタルモノニシテ(中美)日本ハ必スシモ汪ノ獻策ニ滿幅ノ信賴ヲ措カサルヘキモ長期戰下ノ國力ノ消耗財政經濟ノ窮乏ニ加ヘ澎湃タル國內ノ反戰思想抑壓ノ爲窮餘ノ策トシテ所謂支那通ノ誤レル政策ヲ繰返サントスルモノニシテ之ニ依リ支那ノ分裂ヲ圖リ獨伊ニ呼應シテ支那侵略ヲ逞ウシ併セテ英米佛ノ對支援助ニ報復セントスルモノナルヘシ(譯報、文匯報)要スルニ汪昨年末來ノ行動ニ關シテハ吾人ハ難キヲ忍ビテ其ノ悔悟ヲ待チ居タルモ事茲ニ至リテハ斷乎タル措置ヲ取ルト共ニ其ノ一派ノ盲動工作ヲ防止シ支那ノ徹底的抗戰ヲ世界ニ明示スヘキナリト論シ居レリ

北京、天津、南京、漢口へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

(欄外記入)

449

昭和14年4月11日

在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の脱出先等につき高宗武と会談について

香港 4月11日後発

本省 4月12日前着

第四五三號(館長符號扱)

十日夜高橋及矢野同席高ト會見ス

一、高ヨリ河内行汽船ヲ當地ニ寄港サセ先ツ自分等同志ト協議セシメラレタシト重ネテ申出テタルヲ以テ(過般來數度之ヲ繰返シ居レリ)右ハ不可能ニ付高自身聯絡ノ爲赴河スヘキ旨勸告シタルニ對シ汪ヨリハ自分及陳公博ニ來河方要求アリタルモ同志ノ反對ニテ駄目ナリトテ承諾セス梅又ハ周佛海ノ内眚クトモ一人ヲ派遣シタキ内意ナリト言ヘリ右實現迄矢野ハ四五日前赴河セル中山ト聯絡スル手筈ナリ

二、汪ノ行先ニ付高ハ上海ヲ主張セルカ汪カ日本船ヲ利用スル以上日本トノ關係ハ決定的ノモノト判斷セラルヘキヲ以テ危險ナル上海ヨリハ寧口臺灣ヲ擇フモ左シテ不利益ナラサルヘク

(2) 又香港トセハ漢奸ノ非難ヲ幾分免ルヘキモ政廳側ノ監視嚴重ノ爲活動ハ甚タシク掣肘サル外再ヒ脱出問題起ルヘク澳門ハ一時的避難地トシテモ安全ヲ保證シ得サルヘシ尙一時外遊ノ手ハ有ルヘキカ右ハ重慶ニ對スル屈服ナリト述ヘタルニ對シ一々首肯セルモ何等決定的意見ヲ吐カス

三、往電第四三七號ハ支那側ヨリ漏セルモノト認メラレ注意ヲ喚起シタルニ對シ高ハ同志幹部十六名中汪及夫人ノ外曾仲鳴ト自分ノ外二軍人一名カ内容ヲ識リ居リ絕對ニ斯ルコトナシト否定セルカ杜月笙トハ絶エス聯絡シ居リ同人ヨリ高、陳及佛海三名ニ對シ重慶ヨリ暗殺ノ命令アリシヲ聞ケルコト又高二翻意歸渝スヘキ旨重ネテ重慶ノ特使ヨリ勸告ヲ受ケツツアルコトヲ語レリ

(欄外記入)

矢野ハ行ク考ナルヤ、然ラバ河内へ直接連絡ノ要アルベシ

編注 「中山」は「周隆庠」を意味する符牒。

昭和14年4月14日

在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

汪派による対重慶切崩し工作の停滞状況等に

鑑みわが方の汪兆銘工作を再検討する必要性

につき意見具申

付記 昭和十四年四月十三日、東亜局第一課作成

汪工作の取扱いに関する陸軍側意向

香港 4月14日後発

本省 4月15日前着

## 第四七五號(館長符號扱)

一、汪一派トノ連絡ハ依然高宗武ノミニテ當方累次ノ要求ニ拘ハラス他ノ幹部トノ接觸ヲ許サス又彼ト汪トノ連絡振ハ數次ノ拙電ニ依リ御推察アル通りニテ果シテ充分ノ了解アリヤ就中東京會談カ其ノ儘詳細河内ニ傳ヘアリヤ疑ハシキ一方在河改組派等トCC系相互ノ連絡ニ付テモ疑問アリ疑ヲ挿ム餘地多ク又汪ト蔣介石トノ無關係ナルコト愈明カトナル反面ニ於テ高乃至部下カ當地又ハ上海ヨリ重慶ト祕密通信ヲ爲シ居ルニアラスヤトノ疑念ヲ起サシムル節モアリ此ノ上高ノミヲ相手トシ話ヲ進メルコト

ハ假令前記諸點ノ或部分カ臆測ノ範圍ヲ出テストスルモ餘程注意ヲ要スヘク又汪最近ノ聲明カ總テ汪ノ一存ニ出テ居ル事實ヲ併セ考フルニ此ノ際我方ハ汪ノ眞意ヲ直接糺明スル必要ニ迫ラレ居リ其ノ上ナラテハ對汪工作ヲ如何ニ進展スヘキヤハ決定シ難キ實狀ニ在リト認メラル

二、最近汪一派ニ對スル重慶ノ監視嚴重トナレルト共ニ政廳ノ南華日報ニ對スル干涉加ハリ同新聞ハ屢其ノ警告ヲ受ケ八日附汪聲明ノ如キ蔣介石攻撃ノ重要部分ハ檢閲ニ依リ總テ伏字ニ改メサセラレタル有様ニテ汪カ來香スルモ活動上相當ノ掣肘ヲ受クヘク殊ニ今後聲明ノ發出ノ如キハ不能トナル惧レナキニアラス去迎今上海ニ赴クモ維新政府トノ關係機微ナルモノアリ又身邊ノ危險モ遽ニ保障シ難カルヘシ汪トシテハPL情報ノ如ク來香ヲ希望シ居ルヘキモ前記事情ヲ考慮ニ容ルレハ或ハ當分高ノ言フ如ク河内ニ止ルコトヲ希望スルヤモ知レス何レカ宜敷ヤ判斷ニ苦シムモ結局ハ爾後我對策如何ニ依リ左右セラルル問題ナルヘシ

三、汪派ノ軍事策謀ノ進展ハPL情報カ真相ニ近キモノナルヘク多少ノ進展アリトスルモ未タ自己満足ノ程度ヲ出テ

ス假ニ實力派ト相當ノ内部連絡附クモ其ノ最後の發動ハ我軍事行動ノ進展ニ俟ツコトトナルヘク今日迄ノ情況ヨリ判斷セハ良ク見テ五分ノ成功率ニ達セス依テ或ハ此ノ邊ニテ對汪工作ニ再檢討ヲ加フヘキ時期ニ到達セルヤニモ判斷セル即チ我カ行キ方トシテハ西南ニ先ツ汪ノ地盤ヲ作ラス方向ニ進ムカ或ハ斯ル企圖ノ成就スルヲ待タスシテ汪ヲ中心トシテ新中央政府ノ樹立ヲ急クカ將又將來時機ヲ見テ支那民衆ノ輿論トシテ政府首班ニ擔キ上ケサス爲一應汪ヲ影ノ人トシ(我援助ヲ止メル意味毛頭ナシ)新ナル重慶工作ニ進ムカノ差ナル處第一ノ舉兵計畫ヲ進捗セシムルコトハ素ヨリ望ム所ナルモ其ノ見透シ前述ノ如シトセハ汪今後ノ行動ヲ全部之ニ引掛ケテ考ヘル必要モアルヘク

第二ハ「フランコ」程度ノ政權樹立ヲ前提トセハ占領地ヲ固メ對外關係ヲ處理スル爲ニハ結構ナルモ汪ハ之ニ依リ完全ニ漢奸トナルヘク重慶ノ宣傳ハ裏書セラレ半信半疑ノ者ハ素ヨリ反戰救國ニ傾ケル者スラ折角ノ汪ノ主張ニ隨伴スルヲ得サルニ至リ對重慶工作ハ全ク新ナル「スタート」ヲ切ルコトトナル惧アリ(汪ニ同情アル支那人

間ニ於テモ近衛聲明ハ内閣更迭ニ依リ反古トナリ之ニ呼應スル汪ノ和平主張ハ無意味ナリトノ觀測モ相當行ハレ居レリ)依テ第三ノ方法ニ依リ汪聲明ノ捲起セル強力ナル波紋ヲ今後充分ニ活用スルモ本人ハ當分其ノ希望スル土地ニ於テ自適セシメ重ネテ重慶ニ對スル論陣ヲ布カス時局ノ外ニ立チタル形ヲ裝ハシメ乍ラ中央政府樹立ノ下工作ヲ急クコトトシ然モ之ト併行シテPLノ主宰スルカ如キ舉兵計畫ニ必スシモ大ナル望ヲ囑セス寧口對福建工作及各方面ヨリスル重慶政府ノ新攪亂工作ニ主力ヲ注クコト新情勢ニ適應シ眞ニ汪ノ和平運動ヲ活カス方策ナリトモ考ヘラルル處

以上ハ客觀情勢ヲ主トスル判斷ナルヲ以テ汪ノ眞意及決心ノ如何ニ依リテハ同人ノ來香ヲ阻止シ得ス又其ノ身邊ノ安全ヲ考慮セハ一切ノ不利ヲ忍ンテモ第二ノ方策ヲ執ル外ナキ場合モアルヘキ處何ノ途重慶ニ對スル新ナル謀略ノ必要増大セル事態ナルコトハ間違ナキ所ナリ

四、右ニ關聯シ最後ニ注意ヲ要スルハ汪脱出後重慶ノ抗日陣營強化サレタルコトニシテ一部ニ潛行的和平運動行ハレ居ルハ事實ト認メラルルモ之トテ實力派就中軍官學校系



統ノ一團ノ將來ヲ如何ニスルヤノ點ニ付彼等關係首腦部  
カ安心ヲ得ルニアラサレハ到底表面化スル可能性ナク重  
慶ハ外部ニ對シ依然トシテ第三國ノ援助ヲ誇大ニ放送シ  
ツツ抗戰一點張りノ主張ヲ續ケルコトナルヘク今後ノ  
對重慶問題ハ右含ニテ工作ヲ進ムルコト肝要ナルヘシ  
上海ヘ轉電アリタシ

(付記)

汪精衛一件

(昭和一四、四、一三、亞一)

四月十二日東亞局第一課長參謀本部臼井大佐ト會談ノ際東  
亞一課長ヨリ汪精衛ニ對スル最近ノ重慶政府側暴露戰術ニ  
鑑ミ陸軍側ニテハ本問題ノ處理方法ニ變更ヲ加フル様ノ御  
考ナキヤト尋ネタルニ對シ臼井大佐ハ汪精衛力漢奸ノ立場  
ニ明瞭ニ立ツコトトナリタル此ノ際最早我方トノ關係ヲ祕  
スルコトモ事實上困難トナリタルモノト考ヘラレ從テ相當  
大ビラニ取扱フモ致方ナカルヘシト考フ此ノ際汪ヲ香港、  
澳門等ニ引出スモ滯留中身邊ノ危險ヲ感スル惧大ナルニ付  
東京ニ連レ來リ中央ニテ直接本人ノ眞意ヲ突止ムルコトモ

一法カトサヘ考ヘ居レリ目下和知、石野兩大佐上京中ニ付  
陸軍側トシテ相談ヲ重ヌル積リナルカ畢竟近日中ニ行ハル  
ヘキ現地ノ會談ノ結果ヲ俟ツノ外ナカルヘシト思考ス外務  
省ニ於テモ之等ノ點ニ付御考慮置キヲ乞フトノ趣旨ヲ述ヘ  
タリ



451 昭和14年4月19日 矢野領事より  
有田外務大臣宛(電報)

汪兆銘と影佐一行との會談報告

ハノイ 4月19日後0時42分發  
本省 4月19日後9時10分着

本日影佐、犬養、矢野ハ汪精衛ヲ往訪三時間半ニ亘リ會談  
セルニ同人ハ既ニ高宗武ヲ通シ從來ノ經緯ハ委細了知シ居  
レルニ付直ニ本論ニ入ルベシトテ牢固タル決意ヲ示シ一日  
モ早ク安全且運動ノ進展ニ便ナル地點タル上海ニ移轉シ度  
キ旨ヲ語リタルニ付一行渡航方法ニ關シ細部の折衝ヲ遂ゲ  
一回ノ會見ニテ當方ヨリ多クヲ言フヲ要セズシテ協議ハ容  
易ニ成立セリ

尙有田外相、板垣陸相及鈴木ノ書簡及米内海相ノ名刺ハ無

事本日手交済ニシテ汪精衛ハ直ニ返信ヲ認ムベキ筈ノ處目  
下上海行ニ忙殺サレ居ルニ付禮狀ハ追テ上海ニ落付キタル  
上呈上スル存念ナル旨傳達アリタシト語りタリ委細ハ影佐  
ヨリ陸軍臼井宛電報ニテ御承知アリタシ  
鈴木ヘモ御内話アリ度シ

452

昭和14年5月15日

矢野領事作成の「渡邊工作現地報告(汪)(河内  
救出ノ卷)」

付記一 昭和十四年四月二十五日發大津(和郎)台灣軍

參謀長より中島(鉄蔵)參謀次長宛電報台電第

二五号

テロの危険急迫のためハノイからの急速脱出  
の必要性について

二 昭和十四年四月二十五日發土肥原機関より笠

原(幸雄)參謀本部総務部長宛電報原電中支第

二〇三号

安全確保の観点から汪兆銘の上海来訪はでき

るだけ遷延すべき旨具申

三 昭和十四年四月二十七日發大津台灣軍參謀長

より笠原參謀本部総務部長宛電報河内(門松)

電第五八号

汪兆銘乗船の汽船に対する搜索要請

四 昭和十四年五月一日、東亞局第一課作成

汪兆銘が影佐一行乗船の北光丸に移乗したと

の情報

渡邊工作現地報告(汪)(河内救出ノ卷)

矢野領事

(昭十四、五、十五)

命ヲ奉シ小官四月五日福岡ヨリ上海ニ飛ヒ同月七日英船

「グレンベッグ」號ニテ十日香港着直チニ田尻總領事、

市田中佐ト協議シ且同地ニ於ケル本件工作狀況、心得ヘキ

諸點竝ニ影佐大佐ニ對スル傳言ヲ聞キ十一日英國航空機ニ

テ河内ニ到着セリ

一、香港ニ於テ田尻總領事及市田中佐兩官ヨリ高宗武ニ關シ

左ノ疑惑ヲ聞キ又矢野ニ於テ看取セリ

(一) 本件ニ關スル日本側ノ意嚮竝ニ汪兆銘ノ意嚮ヲ充分兩

者ニ連絡シ居ラサル懸念アルコト

(二) 高ハ影佐、其ノ他ノ河内行ヲ引留方殆ント毎日ノ如ク市田、田尻兩官ニ對シ執拗ニ要望セルコトハ極メテ諒解ニ苦シム點ナルコト察スルニ從來汪ニ充分日本側ノ意嚮ヲ傳ヘ居ラサルニ付汪ト影佐一行ノ直接會見ヲ好マサリシカ後日高力猶蔣ヲ頭ニ戴キ時局ヲ收拾セントノ意ヲ矢野ニ明言セル點ニ鑑ミ影佐ノ河内行ニテ汪ノ工作ノ進捗ヲ惧レタルニ非スヤトモ思ハル

(三) 高ト田尻、市田、矢野ト某處ニ會合セル際田尻、市田ヨリ交々高ノ河内行ヲ慫慂シタルモ兎角辭ヲ左右ニシ煮エキラス果テハ周佛海及梅思平ノ兩人ヲ派遣スヘキ旨ヲ別ルニ先チ漸ク告ケタルカ從來本件工作ノ主任者タル高ノ河内ニ行クコトヲ肯セサルハ極メテ奇怪至極ト見受ケラレタリ

(四) 前記會談中高ニ於テ杜月笙ト常時會見シ居ルコトヲ洩ラセル上ハ疑惑ヲ深ムルモノノ一ト見受ケタリ

(五) 會見中市田ヨリ高ニ對シ四月五日重慶側ニ於テ本件工作ニ關スル曝露聲明ヲナセルコトニ言及シタルニ高ハ盛シニ日本側ニ於テ機密ヲ洩ラセルモノナラントテ且

上海機關ニ非スヤトサヘ述ヘタルカ前記四月五日ノ曝露記事中金錢授受ニ關シテハ市田ト高ヨリ以外知ルモノナキニ拘ラス之カ言及サレ居ルハ極メテ奇怪ナル旨ヲ告ケタルニ高ハ答フヘキ辭ニ苦シム様ヲ見受ケタリ  
(六) 河内ニ先行シ居ル周隆庠ハ從來高トノ關係モアリ自然高ニ對スル疑惑ハ周ニ對シテモ一應適用サルルコトトナルヲ以テ今後小官等ノ河内ニ於ケル工作ニハ一段ト慎重ヲ加フルノ要アルコトヲ痛感シ又田尻、市田兩官モ此ノ點影佐ニ篤ト説明方小官ニ依頼セリ

二、十一日河内ニ到着シ直チニ門松少佐ヨリ報告ヲ受ケタルコトハ周ト既ニ四月九日連絡開始濟ナルコトナリ

又小官ノ感知セルコトハ佛印當局ノ監視ノ眼、日本人ノ動靜ニ嚴重ニ向ケラレ現ニ總領事館附近及官邸直前ニハ常ニ佛印警察當局ノ探偵張込ミアリ小官等ノ行動ニ極メテ不便ヲ感シタリ

(一) 小官ハ四月五日ノ重慶側ノ本件工作曝露竝ニ汪兆銘ニ對スル惡口罵詈及汪ノ之ニ對スル反撥等アリシ經緯ヨリ察シ影佐ト汪トノ會見ハ一回ニテ大本ノ決定ヲ見ルモノト察セラレタルト共ニ他方佛印官憲ノ保護ノ爲メ

却テ汪ハ監禁ノ状態ニアルコト又多數ノ重慶側ノ刺客ノ潛行運動等ニ鑑ミ小官ハ汪ト影佐トノ會見ニ關スル具体案及若シ汪ノ出廬ニ際シテノ運搬ノ具体策ノ二問題ニ關シ現場審査等ノ方法ニ依リ祕カニ研究シ置ケバ足り影佐來着前餘リ小官等ノ活動ニ依リ佛印及重慶側ノ注目ヲ惹クコトヲ極力避ケ且門松少佐ニモ之ヲ説明シ鳴ヲ靜メ影佐ノ到着ヲ俟チタリ

(二)影佐ハ十六日夕刻海防ニ到着シ同地ニ一泊ノ上十七日午前十時半頃自働車ニテ河内ニ到着シ臺拓支配人宿舍ニ入レリ

之ヨリ先影佐入國ニ際シ佛印ノ上陸禁止其ノ他萬一ノ場合ニ備フル爲メ十六日浦部副領事ヲ他用ニテ海防ニ赴キタルカ如ク裝ハシメ派遣シ置キタル二十六日午後十一時頃同副領事ハ河内ニ歸來シ影佐一行ノ無事上陸ヲ報告セリ

(三)影佐ニ對シテハ前記高二對スル疑惑及周隆庠ニ對シテモ自然疑惑ヲ抱カサルヲ得サル旨縷々説明セルニ影佐モ諒解シ影佐犬養矢野三者協議ノ結果會見場所ニ關シ先方ハ先方ノ指定スル方法ニテ且其ノ指定スル場所ニ

於テ會見方ヲ主張スルニ相違ナキニ付其ノ際ハ一應右ハ佛印官憲ノ眼ノ光レルカ故ニ不適當ナラスヤトノ理由ニ基キ一考ヲ煩シ度キ旨ヲ答フルト共ニ委細ハ汪ノ親翰ヲ持參スル正式代表ト協議ノ上決定シ度キ旨申入レ以テ重慶側ノ術策其ノ他不慮ノ障礙ヲ避クヘキ旨議纏マリタリ

(四)十七日夕刻案ノ定汪側ハ周ヲ使者トシテ先方ノ指定スル方法ニテ指定スル場所ニ於テ會見方申越シ來レルニ付早速豫メ協議セル通り汪ノ親翰ヲ持參スル代表ト協議ノ上決定シ度キ旨回答セル處十八日午前十時頃汪ノ親翰ヲ携ヘ周使者トシテ連絡シ來リタルニ付意ヲ決シ先方ノ要望ノ通り實行スルニ決シ此ノ旨回答セリ

(五)影佐、犬養、矢野ノ三名ハ十八日午後一時半約束ノ場所タル競馬場ニ至リ旅行者ノ見物ノ體ヲ裝ヒ待チ居リタルニ周ノ乗レル大型自働車疾驅シ來リ小官等ノ面前ニテ急停車ヲナシタルカ其ノ際自働車ノ番號札ニ左圖ニ示スカ如ク「漢」ノ字ヲ附シアルヲ發見シ奇異ノ感ニ打タレタルモ我々ハ運ヲ天ニ任セ之ニ乗込ミ運ハレテ或ル角屋敷ノ邸宅ニ至リ門前ニ佛人ヲ主班トスル安

南人警官ノ警戒物々シキ中ヲ疾驅シテ門内ニ入り背後ニ鐵門ノ閉鎖サルヲ見タリ小官等ハ誘ハレテ階上應接間ニ入り汪ノ出現ヲ鶴首シテ待チタルニ驍テ汪ハ扉ヲ排シテ現ハレタルヲ以テ愁眉ヲ開キタリ

三、汪ト影佐、犬養、矢野ノ會談要領左ノ如シ

(一) 汪ハ開口先ツ遠來ノ勞ヲ謝シタル上委細ハ高宗武ヲ通シ能ク諒解シ居ル次第ナルト共ニ當地ハ佛官憲ノ保護ノ爲メ安全ナルモ貴下等トノ會見モ頻繁ニナスハ事ノ曝露スル源トナルヲ以テ今日ハ早速本論ニ入り度シト前提シ自分ハ嘗テ御承知ノ通り高ヲ通シ貴方ニ對シ三個ノ提案ヲナシタリ即チ第一ハ日本ニ於テ蔣介石ヲ相手トシテ時局ヲ收拾セラルル場合ハ自分ハ極力斡旋スヘキコト、第二ハ何人カ第三者ヲシテ時局ヲ收拾セシムルナラハ野ニ在ツテ自分ハ大ニ和平運動ニ努力スヘキコト第三ハ余ニ於テ時局ヲ收拾セヨトノ御希望ナラハ全力ヲ盡シ之ヲナスヘキコトノ三案ナリ

自分ハ今日ニ於テモ猶右三案何レニテモ日本側ノ御希望ニ應ジ行動スルノ用意アリ

註。於是犬養ヨリ日本朝野ノ汪先生ニ對スル共鳴振リ

ヲ説キ聲淚下ルモノアリ汪氏之ニ感激シ顔ヲ背ケテ涙ヲ拭ヒ次テ影佐ヨリ一月十六日ノ聲明ニ言及シ之ハ不動ノ國策ニシテ且現平沼總理モ其ノ就任ニ際シ之カ踏襲ヲ聲明シ居ル次第ヲ述ヘ汪ヲ激勵シ汪之ニ感謝ノ意ヲ表ス

(二) 現在支那ニ於ケル民衆ハ賴ルヘキ中央政府カ重慶ニ遁入シ居ル有様ナルヲ以テ其ノ歸趨ニ迷ヒ又日本トノ間ニ和平交渉スヘキ代表政權モ無ク且重慶方面其ノ他全支ノ和平派モ賴ルヘキ中央政權ナキ次第ナルヲ以テ民心安定、和平交渉ヲナスヘキ中央政權ヲ樹立シ日本ニ依リ之ヲ承認セラレ以テ和平交渉ノ衝ニ當ラシムルコトカ今後自分等ノ工作ノ根本ト思考スル次第ナルカ之ニハ多大ノ日子ト相當ノ困難ヲ豫期スル次第ナリ其ノ理由左ノ如シ

(1) 重慶政權内部ニモ多數ノ和平要望ノ同志アル處之等ノ人々ハ何レモ蔣介石ノ監視嚴重ナル爲重慶脱出仲々困難ニシテ謂ハハ外部トノ往來ヲ遮斷セラレ居ルニ付之等ノ人々カ適當ノ時機ヲ捉ヘ且好キ口實ヲ設ケ脱出スルニハ相當ノ日子ヲ要シ且多大ノ困難ヲ

克服スルヲ要スル次第ナリ

(2)又軍隊中ニモ余等ノ同志アリ例ヘハ薛岳鄧龍光等ノ如キモノアルモ之等ノ軍隊ハ何レモ分散配置セラレ其ノ周圍ニハ蔣ノ直系軍隊カ配置セラレ居リ余等ノ同志軍人ノ相互連絡ヲ遮斷セラレ居リ行動ヲ起スコト容易ニ非サル現状ナリ

(3)又余等ノ同志軍人ノ軍隊ハ概ネ日本軍トノ交戦ニ於テ多大ノ損失ヲ受ケ舊部下ヲ失ヒ之等ハ概ネ蔣直系軍ニ依リ補充セラレ居ルニ付漸次中央軍ニ依リ牛耳ラレ居ル有様ナルニ付之亦右軍人等カ容易ニ行動ヲ起スヲ得サル現状ニ在リ

(4)雲南軍ノ例ヲ見ルニ精兵概ネ前線ニ送ラレ殘留部隊ハ未訓練ノ烏合ノ衆ニシテ弱兵ナレハ龍雲ノ起チ難キハ斯カル事情ニモ依ル次第ナリ

(三)何レニシテモ今後我々ノ工作ヲ進ムルニ付テハ貴下ノ既ニ御承知ノ如ク當地ハ佛印官憲ノ嚴重ナル保護ノ下ニ生命ノ安全コソアレ其ノ結果ハ同志トノ連絡ニハ極メテ不便ナレハ何レカ安全ニシテ且同志トノ連絡ニ便利ナル地ニ移轉ヲ要スル次第ナルカ況ヤ前述ノ如ク雲

南ニ於テ當分起チ難キ現在ニ於テハ猶更至急移轉ノ必要ヲ感シ居ル次第ナリ

然レ共茲ニ考慮スヘキハ余ハ重慶脱出ニ際シ旅券ヲ持參セス無旅券ニテ佛印當局ハ入國ヲ許可セル次第ナリ從ツテ旅券ヲ所持セサル關係上佛印當局ノ保護ノ下ニ余等カ豫テ「チャーター」シ十七日西貢ヲ出發シ不日海防ヘ來航スル船舶ヘ無事乗込ムコト一案ト存シ實ハ祕カニ佛印當局ニ申入レタル處先方ハ快諾シ居レルニ付此ノ方法ニ依リ脱出セント思フ處御意見承リ度シ註。於是影佐ヨリ話ハ最早脱走方法トイフ細事ナレハ

貴大人ヲ煩ハス程ノコトニモ非サルニ付大人ハ暫ク休憩セラレ四人ニ於テ案ヲ作成シタル上之ヲ御一覽下サレ度シト述ヘ汪ハ茲ニテ退場影佐、犬養、矢野、周隆庠四名協議ノ上左ノ細目ヲ作成セリ

(1)汪ノ旅券ヲ有セサルコト、機密保持ノ上ヨリ又最安全ニ脱出スルコトヲ得ル點ヲ考慮シ佛印當局ノ保護ノ下ニ脱出スルコト最得策ト思考ス

(2)河内ヨリ海防ヲ經由上海ニ赴キ佛租界隱家迄佛國側ヲシテ輸送指揮官ヲ任命セシメ之ヲシテ責任ヲ以テ

輸送セシムルコト

(3) 「チャーター」セル佛船 Von Vollenhaven ノ船員  
検査ヲ行ヒ中國人ハ全部下船セシメ之ガ補充ハ安南  
人ヲ以テス

(4) 船中武器検査ヲ行ヒ汪側及官憲側以外ノ武器彈藥ハ  
全部沒收ス

(5) 佛印側ハ船中ノ治安ヲ維持スルニ足ル武裝護衛ヲ乘  
船セシムルコト

(6) 汪側ニ於テモ充分ノ武裝護衛ヲ帶同シ常時汪ノ身邊  
ヲ護衛ス

(7) 影佐ノ乗船タル北光丸ハ目立タサル程度ノ間隔ヲ置  
キ汪ノ乗船ニ尾行護衛ス

(8) 日本側ハ豫メ共同租界或ハ日本側占領區域ニ二三個  
所隱家ヲ用意シ置キ汪ノ佛租界ニ入ルヤ能フ限リ速  
カニ右隱家ニ移轉シ得ル様手配シ置クコト

(9) 汪一行ノ上海ニ於ケル檢疫及通關方ニ關シテハ日本  
側ニ於テ極祕裡ニ斡旋ス

右案作成ノ上汪ノ出席ヲ求メ之ヲ呈示シタルニ汪ニ於  
テハ大体宜シカルヘシト述ヘ尙能ク研究シ置カント述

ヘ茲ニ公式會談ヲ終リ雜談ニ移リタリ

(四)之ヨリ先汪ノ退場前矢野ヨリ日本ヨリ携行セル有田大  
臣板垣陸相及鈴木部長ノ書翰竝ニ米内大臣ノ名刺ヲ手  
交シタルニ汪ハ一讀ノ上早速御禮狀ヲ差上クヘキノ處  
今ハ脱出ニテ多忙ノ身ナレハ追テ上海ニ落付タル上御  
禮狀ヲ差上クヘキノ付不惡御諒有リ度ク此旨貴下等ヨ  
リ宜シク御傳ヘ下サレ度ト述ヘタリ

(五)雜談ノ時間後三十分ニシテ左ノ會談行ハレタリ

(1) 汪曰ク

客年末聲明ヲナシタル時ハ實ハ同志中ニ於テモ諸般  
ノ準備完了ノ上ナスヘシトテ延引説ヲ唱フルモノア  
リタルモ既ニ近衛總理ニ於テ聲明ヲ發表セラレタル  
上ハ之ト連絡アルカ如キ疑惑ヲ避クルニ必要ナル程  
度ノ期間サヘ置ケハ速カニ近衛總理ニ呼應スルコト  
カ同總理ノ御努力ニ酬ユル禮ト考ヘ自分ハ斷然客年  
末ニ聲明ヲ發シタル次第ナリ

(2) 汪ハ次テ歐洲ノ形勢殊ニ英佛蘇ノ同盟成立ノ可能性  
又歐洲大戰ノ發生ノ可能性ニ關シ質問セルカ影佐、  
犬養共ニ答フル様子ナカリシカ故ニ矢野ニ於テ已ム



(編注)

ナク私見ヲ述ヘ置キタリ。實ハ本會談中日本側ノ發言トシテハ矢野ノ談話カ最モ長カリシ點ニモ鑑ミ如何ニ本件會見カ圓滿ニ運ハレ且汪ノ決意ハ既ニ會見前固メラレ居リタルカヲ知ルコトヲ得ヘシ

(六)本會見ハ午後一時四十五分頃ヨリ約三時間半ノ長時間ニ亘リタルカ汪ノ決意極メテ固キモノアリ成敗ヲ天ニ任セ和平救國ノ大業ニ乘リ出ス熱誠ノ面ニ溢ルルモノアルヲ感知セリ

四、本日ノ會談後直チニ參謀本部ニ宛テ會見顛末概略電報スルト共ニ上海機關ニ對シ汪ノ隱家、防彈窓及鐵網ノ用意竝ニ護衛ノ準備方訓令セラレ度キ旨依頼セリ又別ニ矢野ヨリ本省ニ對シ前記汪トノ會見ニ關シ概略電報セリ

五、四月十九日汪ノ使者ヨリ連絡スヘキ事項アル旨ヲ報シ來リタルヲ以テ矢野ハ門松ヲ帶同河内郊外ノ「格蘭ラック」附近ノ田圃ノ畔道ニ於テ周及陳某ト會見セルニ先方ハ昨日ノ脱出計劃案ハ双方ノ同志ニ對シテモ極力祕密ニシ度キヲ以テ上海ノ準備ニ必要ナル向以外ニハ知ラシメサル様願度シト申出テ且隱家ノ防禦設備、通關竝ニ檢疫手續ハ吳タモ宜シク御頼スト申越シ矢野ヨリ右諸點ニ關

シテハ既ニ手配濟ノ旨ヲ述ヘ且極力最少限度ノ人々ニノミ報告スヘキ旨答ヘタリ

六、四月二十日夕刻(午後七時頃)突如先方ヨリ連絡シ來リ汪ノ居宅ノ隣家三階ヲ歐亞航空公司ノ名儀ニテ借家シタルモノアル處諜報ニ依レハ右三階ヨリ汪ノ居宅ニ爆藥ヲ投シ一舉ニ居宅全部ヲ爆破シ其ノ騷ニ乘シ汪ヲ暗殺セントノ陰謀アルコトヲ知リタルニ付テハ人ヲ派シ目下佛印警察當局ニ對シ事實ノ取調方竝ニ一層警戒ヲ嚴ニスルコトヲ依頼中ナルカ佛印側ノ態度如何ニ依リテハ今夜ニテモ安全地帯ヘ避難シ度キニ付テハ其ノ際ハ日本側ニ於テ隱家ヲ斡旋セラレ度キ旨ヲ依頼越セリ仍テ影佐犬養矢野三名ニ於テ種々協議ノ結果若シ斯カル緊急ノ事態ニ立至ルトキハ一度日本側居宅ニ移スモ其ノ後ノ脱出ハ益々困難トナルヲ以テ寧ろ汪ノ居宅ヨリ行方ヲ晦マシ海防ニ下リ北光丸ニ連達ムコト以外ニ良策ナシトノ儀纏マリ且左記ノ如キ連出ノ方法ヲ決定セリ

(一)汪一行ハ其ノ自働車ニテ郊外某地點ニ逃レ來ルコト  
(二)日本側ハ其ノ地點ニ總領事ノ乗用車其ノ外ニ臺ノ自働車ヲ以テ待合セ置クコト



(三) 先行ノ自働車ニハ矢野カ乘リ中央ノ自働車ニハ總領事ノ乗用車ヲ使ヒ汪之ニ搭乘シ殿ノ自働車ニハ影佐犬養搭乘シ右三車ノ間隔ハ目立タル程度ニシテ且萬一ノ際ニ集マリ得ル程度ノ距離タル一杆ノ距離ヲ置ク  
(四) 途中萬一旅券検査アル場合ヲ慮リ日本人ノ旅券ヲ借用シ汪ノ一行ニ渡シ置クコト

(五) 總領事ハ其ノ官邸ノ使用人ニ疑惑ヲ抱カシメサル爲我々一行カ河内ヲ出發シタル後約二時間半ノ後官舎ニ歸ルコトトシ夫レ迄ハ臺拓支配人宅ニ留マルコト

右ノ諸準備ヲ整ヘ先方ノ連絡ヲ待ち居リタル二午後十時頃汪側ヨリ連絡アリ佛印警察ヨリ歐亞公司ノ名儀ノ借家契約ヲ取消サシメ且隣家ノ警戒ヲモ一層嚴重ニスヘキ旨ヲ保障セルニ依リ今夜ノ脱出ハ取止メ豫テ約束ノ脱出計畫通り決行スヘキ旨ヲ申越シ一騷キノ後今夜ノ非常脱出ハ取止メノコトトナレリ

七、然レトモ十九日頃ヨリ影佐ノ宿舍タル臺拓支配人宅ニ對スル佛印側ノ監視ノ眼益々嚴重トナリ二十日夕刻ニ至リテハ支那人側ニ於テモ監視ヲ始メ現ニ二十日夜九時半ノ連絡ニ際シテハ右支配人宅門前ヨリ中國人密偵カ當方連

絡員ニ附纏ヒ之ヲ撒クニ多大ノ困難ヲ感シタルヲ以テ影佐犬養ハ海防ニ下リ北光丸船中ニ閉居シ矢野ハ河内ニ居殘リ殿リヲ努メ汪一行ノ出發後(汪ハ二十五日未明迅鯨附近ヨリ出發)途々最近交通機關ヲ利用シ上海ニ先發シ上海機關ノ諸般ノ手配ニ萬遺漏ナキ様協力方影佐ヨリ依頼アリタリ

影佐ハ二十一日午前九時河内ヲ自働車ニテ出發シ北光丸ニ乗込ミタリ

八、二十三日參謀本部ヨリ外務省ヲ通シ電報アリ上海ノ用意ノ都合モアリ一時青島ニ赴キ待機シテハ如何尤モ上海ノ準備ハ影佐ヨリノ申越通急カセツツアリト申越シ來リタル處影佐ハ既ニ海防ノ船中ニ在リ而モ連絡ニ赴カシムヘキ者モ無カリシヲ以テ早速矢野ハ荷物ヲ纏メ河内ヲ引揚ケ館員一名ヲ右電報ノ返電ヲ河内ニ携行セシムル爲メ帶同シ二十三日午後二時海防ヘ向ケ自働車ニテ出發セリ午後四時海防着ト共ニ一書ヲ認メ前記參謀本部ニ對スル回電案ヲ封入シ船中ノ影佐ハ臺拓坂本支配人ヲシテ携行セシメタルニ影佐ニ於テモ同意ノ旨回答シ來リタルニ付前記回電案河内館員ニ手交シ鈴木總領事ニ手交スヘキ旨

竝ニ途中萬一ノ場合ハ右同電案ヲ口中ニ入レ證據ヲ減スヘキ旨ヲ下命シ同館員ヲ出發セシメタリ、二十四日早朝鈴木總領事ヨリ館員無事歸來セリトノ電話ニ接シ安堵セリ

九、二十四日影佐ヨリ臺拓支配人ヲ通シ書信ヲ以テ北光丸ハ同日午後五時半出港シ公海ニ於テ二十五日未明迅鯨附近ヨリ出帆スヘキ汪ノ乗船ヲ尾行護衛シ上海ニ五月六日入港ノ豫定ナルニ付萬事手配方依頼越シアリ矢野ヨリ汪ノ乗船 Von Vollenhaven ノ僅々七百三十噸ノ小船ニシテ耐波力乏シク萬一ノ惧アルニ付事態已ムヲ得サレハ公海上ノ適當ナル地點ニテ北光丸ニ積換ヘテハ如何ト申送リタルニ影佐ヨリ右ヲモ考慮シ居ル旨回答アリ北光丸ハ午後五時半無事出帆セリ

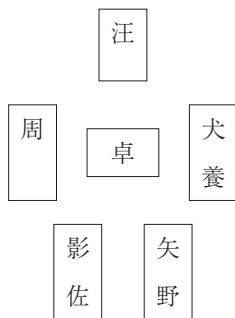
六、矢野ハ二十五日正午出帆スヘキ佛船廣東號ニテ香港向ケ出發ノ處廣東號ハ二十六日午後四時出帆ニ延期セラレ爲メニ香港ヨリ上海ニ至ル船ハ皆無ニテ上海着ハ遂ニ五月五日ノ龍田丸ヲ擇フヨリ外ニ方法無キコトトナリタリ  
香港ニ於テ田尻、市田兩官ニ河内工作ヲ詳細報告ノ上五月三日龍田丸ニテ高宗武及市田ト同船シ五月五日午後二

時上海ニ到着セリ

高宗武トノ船中ニ於ケル會談中種々參考トナルヘキモノアルヲ以テ別ニ稿ヲ起シ概況報告セン

## 參考

一、四月十八日汪ト會見セル家ハ「リユー、コロン」ノ隱家ニシテ曾仲鳴ノ暗殺サレタル家屋ニシテ余等ノ會談セル室ハ二階應接間ニシテ其ノ直上ノ室カ曾ノ暗殺サレタル室ナリトハ汪ノ直話ナリキ、其ノ際左圖ノ如キ座席ニテ會談セリ



二、汪ノ使用ノ自働車ニシテ余等ノ會見日乗セラレタルモノハ左ノ如キ漢口ノ文字板ヲ有シ其ノ後モ猶先方連絡者使用シ居リタルニ付我方ヨリ注意ヲ喚起シタルニ一兩日中

ニ文字板ヲ變更スル様佛印側ニ交渉中ナリト答フ

漢

「漢」ノ字ノ色ハ淡青色

編注一 本文書の「市田」は、すべて「一田」の誤り。

二 「〔矢野、信頼出來ナイ西歐人ノ事デアルカラ貴見ノ如キ事態發生ハ極メテ可能性アルト思ヘルガソノ時ハ世  
界大戰トナリ人類ノ不幸ナリト思フト答ヘタリ〕」との  
書き込みあり。

(付記一)

台 北 4月25日8時30分発

参謀本部 4月25日10時20分着

臺電第二五號(極秘、親展)

河内電第五六號

白井へ門松ヨリ

當地ノ新事態ハ「汪」一味及日本側ニ對スル藍衣社ノ組織

(欄外記入) 的壓迫強烈トナリ將ニ第二ノ「テロ」ヲ見ントスルノ危急  
迫レリ影佐氏等ヲ速ニ乗船セシメタルモ此ノ事情ニ依ルモ

ノナリ爲メニ豫定計畫ノ成功性ハ唯天命ヲ待ツノ外ナク現  
在一瞬ノ機ヲ逸シテハ到底本工作ノ將來性見込立タザルモ  
ノト言フヲ得ベシ外務電上海方面ノ狀況之ヲ許サズトスル  
モ大局ニ基キ大方針達成ノ爲メ中央ニ於テ善處セラレンコ  
トヲ

右鄙見ヲ具申ス

(欄外記入)

今井大佐ハ五月六日前上海ニ赴キ荷物陸揚ノ差配ニ當ル由

(付記二)

上 海 4月25日11時0分発

参謀本部 4月25日14時25分着

原電中支第二〇三號(至急親展、極秘)

第二部長へ晴氣少佐ヨリ

一、參電第二六五號ノ御趣旨ニ基キ其ノ具体的準備ヲ進メア  
リ住居ノ件ニ關シテハ差當リ虹口ニ安全ナル隱家ヲ物色  
ホシキウ

中ニシテ一兩日中ニハ何トカ決定スヘキモ已ムヲ得サレハ土肥原中將ノ公館ヲ一時流用スル積リナリ、陸揚ニ關シ手配ノ都合アリ「汪」ハ庸船シアリヤ又單ニ乘客トシテ乗り込ミアリヤ更ニ其ノ護衛等ニ日本側ヨリ乗込ノ有無至急御通知相煩シ度

二、「汪」ノ來滬ニ關シテハ大要左記理由ニ基キ成シ得レハ「周」「梅」兩人ノ意見ノ如クナルヘク遷延セシメラレ度意見ニシテ右影佐大佐へ至急御轉電ヲ乞フ尙本件ハ塚本、西トモ協議濟ミ

イ、上海ハ本工作ノ根據地トシテハ最モ適切ナル地點ナリト雖モ目下ノ所安全且運動進展ニ便ナル地點ニアラサルカ如シ蓋シ當地ニ於テ敵方ノ實力ヲ以テスル策動ハ依然トシテ熾烈ニシテ殊ニ「汪」一派ノ運動ニ對シ暴壓工作ハ愈々峻烈ニシテ租界ノ現狀ヲ以テシテハ運動進展ノ如キハ當分ノ間期待シ得サルノ狀態ニアリ殊ニ最近「周」「梅」ノ來滬竝ニ「汪」ノ來滬說ニヨリテ先方ノ全關心ハ其ノ動靜探查ニ集中シアリテ唯單ニ居住ニ關シテモ租界内ニ之レヲ求ムルハ縱<sup>エカ</sup>ヘ公部局日本人巡查等ノ護衛アリトスルモ唐紹儀ノ二ノ舞ヲ演

スルノ危險無キヤヲ惧レアリ

口、本工作ヲシテ吳佩孚(二語不明)ノ轍ヲ踐マシメサル爲ニハ既成政權等ト事前二十分ナル了解協調ヲ遂ケシメ以テ一度工作ヲ開始スルヤ何等ノ澁滯ナク一舉ニ施策ヲ展開シ得シメルコトハ必要ナルヘク之カ爲右工作準備期間ニ於テ各方面ニ成ルヘク刺戟ヲ與ヘサルノ配慮ヲ望マシク此ノ境地ヨリスルモ「汪」カ今直チニ當地ニ落付クハ一考ヲ要スヘシ

巷說ノ傳フルトコロニ依レハ「汪」ノ來滬說ハ既ニ維新政府方面ニ相當ノ衝動ヲ與ヘ甚タシキハ辭意ヲ表明說スラ喧傳セラレツツアリ眞僞疑ハシキモ參考迄

(付記三)

台 北 4月27日發  
參謀本部 着

河内(門松)電第五八號(極秘、親展)

北光丸(影佐ノ船)ト「汪」ノ汽船ハ二十五日後九時「ナイチンゲール」島西北十海里ニ於テ邂逅二十六日前九時海峽(海南島北側)通過開始ト予定シアリシ所二十六日(二時北

光丸ヨリ荷物積出セリヤトノ電アリタルガ汪ノ汽船ハ予定ヨリ五時間遅レ二十五日正午ホンケイ(海防附近)ヲ發セルニ付其旨返電シ置キタルモ中央ニ於テモ搜索ノ爲至急適當ナル工作ヲ講セラレ度、又二船邂逅ノ報アラハ當方ヘ電乞フ

(主任課註)

一、影佐ニ通知スルト共ニ海軍ニ依頼「汪」船ノ搜索通報方處置セリ

二、上海ニ於ケル荷揚準備、現地トノ連絡等ニ關シ今井大佐ヲ上海ニ出張煩スコトトセリ

(付記四)

汪一行ノ動靜ニ關スル參謀本部岡田少佐ノ土田

東亞一課長ニ對スル内話ノ件

(昭和一四、五、一、亞一)

一、汪精衛一行ハ香港沖合(英領水外)ニ於テ佛船ヨリ影佐一行便乗ノ北光丸ニ移乗ヲ了シタリ

二、汪一行ハ夫妻ノ外六名ノ隨伴者及十二名ノ支那人護衛、計二十名ナリ

三、北光丸ハ普通船足ニ依レハ四日ニハ上海ニ着シ得ルモ上海ノ住家、警備手筈ノ完了カ四日ナル故六日着滬スル様船足ヲ遅ラシメタリ  
四、今井大佐ハ四日飛行機ニテ上海ニ赴ク筈  
五、汪夫妻ハ大体吳淞沖ニテ小船ニ乗替ヘシメ目立タヌ様上陸セシムルコトトナルヘシ



453 昭和十四年五月十六日

矢野領事作成の「竹内工作一件 上海ニ於ケル工作」

付記一 昭和十四年五月八日着

「渡邊工作關係電報」

二 昭和十四年五月九日着

「渡邊工作關係電報」

三 昭和十四年五月十日、東亞局第一課作成

汪兆銘訪日へのわが方対処振りに関する陸軍側との協議要旨

竹内工作一件

矢野領事記

(昭十五<sup>四</sup>五、十六)

上海ニ於ケル工作

- 一、上海着ト同時ニ晴氣中佐ヨリ汪ノ隱家竝ニ護衛ノ件ニ關シ準備完了ノ次第詳細聞キ且四月三十日香港北方ニ於テ汪ヲ北光丸ニ積換ヘタル旨ヲ聞ク
- 二、五月六日北光丸ハ吳淞沖合八十哩ノ海上ニ來リタルモ濃霧ノ爲メ七日入港ノ豫定ナル旨晴氣中佐ヨリ連絡アリ
- 三、五月六日今井大佐ト新亞「ホテル」ニテ會見河内工作ヲ詳細報告シ今後ノ工作ノ件ニ付私見ヲ申述フ
- 四、影佐ハ七日上陸シ舊土肥原機關ノ住宅重光堂ニ入りタルモ汪一行ハ八日極祕裡ニ重光堂附近ニ用意シアリタル三個ノ隱家ニ入り日本私服憲兵之ヲ護衛シ居レリ
- 五、八日、九日ノ二回ニ亘リ矢野ハ影佐ニ面會シ四月二十五日以後ノ影佐、汪一行ノ苦心ニ關シ詳細報告ヲ受ケ又五月一日、五月六日再度ノ影佐、汪間ノ會談ニ關シ詳細ニ亘リ聞キ且影佐ヨリ先行シテ上京シ有田閣下ニ右顛末ヲ詳細矢野ヨリ報告シ汪ノ上京前ニ汪ノ今後ノ工作ニ關スル日本政府ノ廟議決定方ニ關シ有田大臣ニ於テ御斡旋アリ

リ度旨傳言方竝ニ汪ヲ上京セシムル時ノ隱家其ノ他ノ件ニ關シ參謀本部トモ充分協議シ準備ニ付萬遺漏ナキ様依頼アリタリ

東京ニ於ケル報告

- 一、矢野ハ飛行機ヲ利用セントセルモ座席ナク已ムナク十日午後四時發ノ太洋丸ニ乗船十三日神戸着同日正午發ノ「ツバメ」ニ乗車シ午後九時東京着直チニ土田東亞第一課長ニ面會先ツ河内以來ノ工作ニ關シ報告シ翌日大臣ニ報告スル件ニ關シ土田課長ノ斡旋ヲ依頼シ置キタリ
  - 二、五月十四日午前十一時半有田大臣ニ本件工作ニ關シ詳細報告スル機會ヲ得タリ
  - 三、影佐ノ矢野ニ語ル處ニ據レハ汪ハ每朝朝風呂ニ入り朝食後ハ必ス部下ヲ集メ政治訓話ヲナシ晝食後ハ二時間午睡ヲトルヲ以テ仲々汪トノ會談ノ機會少ク而モ船ハ濃霧ニ襲ハレタル爲メ鐘ヲ鳴ラシ又ハ汽笛ヲ吹ク爲メ會談ヲナスニ適セサル日モ有リタルニ依リ一週間ノ同船中僅々二回ノ會談シカナシ得サリシ次第ナル趣ナリ
  - 五月一日影佐汪間ノ會談ニ於テ汪ノ語ル處要領左ノ如シ
- (一)「カ」大使ハ客年十月末頃漢口ニ來リ蔣介石ト會見セ

ル際日支和平ノ餘地アリヤト質問セル處蔣ハ其ノ餘地無キ旨ヲ答ヘタリ次テ蔣介石ヨリ「カ」大使ニ對シ英國ハ蔣政權ニ對シ徹底的の財政援助ヲナス意アリヤト尋ネタルニ「カ」大使ハ明言ヲ避ケ曖昧ニ答ヘタリ

(二)次テ「カー」大使ハ長沙ニ至リ汪ト會見シ同様日支和平ノ餘地アリヤト質問シタルニ付汪ハ其ノ餘地アル旨ヲ答ヘタリ之ヨリ蔣、汪ノ意見ノ相異明確ニナリ從ツテ蔣、汪間ノ溝生スルニ至レリ

(三)十一月初旬ニ至リ俄カニ蔣ノ抗日ノ鼻息頗ル荒クナリ公會ノ席上常ニ激越ニシテ寧口狂氣シミタル言ヲ用ヒ抗日ヲ強化スルニ至リタリ從ツテ蔣、汪間ノ溝ハ益々深マルニ至レリ右蔣ノ狂氣的の抗日ノ言辭ヲ使用シ初メタル理由ハ左ノ事實ニ基ク

十一月三四日乃至七日頃ノ「クレীগー」大使發「カー」大使宛電報ナルモノアリ其ノ内容ハ「ク」大使カ日本外務當局ト會談セル際日本ハ支那ノ門戶開放機會均等主義ヲ守ルヤ又英國カ居中調停ニ依リ日支和平ヲ招來スルコトハ如何ト提案セルニ日本ハ之ヲ拒絕セルヲ以テ「クレীগー」ハ之ヲ以テ日本トノ妥協ニ見切り

ヲツケ援蔣ノ他ニ方法ナシトテ「カー」大使ニ援蔣ヲ勸告セルモノナリ。蔣ハ之ニヨリテ意ヲ強クシ抗日強化ニ自信ヲ以テ拍車ヲカクルニ至レリ

(四)蔣ノ強カリニ依リ和平派ハ已ムナク聲ヲ潛メタルカ汪ハ重慶政權内部ノ和平派ヲ獲得スル爲メ蔣ニ和平ヲ勸告セントシ最後迄努力シ現ニ重慶脫出直前ニ於テハ長時間ニ亘リ蔣ト未會有ノ激論ヲ闘ハシ物別レトナリタリ又一方高宗武ヨリ既ニ近衛首相ハ聲明ノ用意ヲナシ貴下ノ脫出ヲ待居リ其ノ爲メ假病迄使ヒ閉チ籠リ居ル有様ナレハ一日モ早ク重慶ヲ離レラレ度シト督促シ來レルニ付近衛首相ノ御苦衷ヲ察知スレハ最早此上ノ猶餘ナリ難ク急ニ脫出ヲ決行スルコトトセリ

(五)時恰モ十二月十八日龍雲ヨリ使者來リ復航ノ飛行切符ヲ有シタルヲ以テ之ヲ利用シ脫出セル次第ナリ

雲南ニテ直チニ行動ヲ起ス所存ナリシモ龍雲ハ時期尙早ナリトノ意見ヲ述べタルヲ以テ河内ニ赴キアノ聲明ヲナセル次第ニシテ茲ニテ龍雲ノ行動ヲ起スヲ待チタル次第ナリ

註、四月十八日河内ニテ矢野等汪ト會セル際ニモ近

衛聲明發表後直チニ之ニ呼應スルハ如何ニモ日本側ト通謀セルカ如ク見ユルヲ以テ一定ノ期間ヲ置キ呼應スル意ナリシ次第ナルカ同志中ニハ準備完了ヲ俟チ聲明ヲ出スヘシトノ意見モアリタルモ餘リ日ヲ置クハ近衛首相ノ努力ニ酬ユル策ニモ非ストテ年末ニ發表セル次第ナリト語レリ

(六) (1)抑モ塘沽協定締結直後自分ハ牯嶺ニ至リ蔣ト會見シ同協定ハ單ニ地方的且部分的ノ協定ナルヲ以テ一歩進ミ日支間ニ根本調整方針ヲ立テ日支間ニ協定ヲ作成スヘシト進言セルニ蔣ハ同感ナリト述フ

(2)仍テ自分ハ滿洲問題ニハ暫ク手ヲ觸レスシテ日支間ニ共通利害タル防共ヲ根本方針トスル協定ヲ作成セント決意シ之カ障礙タル羅文幹ヲ罷メシメ自分カ代リテ外交部長トナリ唐有壬ヲ次長トセリ

註、本件ハ鈴木閣下カ市田中佐ヲ帶同シテ當時汪ト會談セル際右様語レリト市田中佐モ裏書セリ  
(當時ノ電報參本側參照)

(3)自分ハ着々右案實行ノ準備ヲナシツツアリタルニ蔣ハ實如變意シ日本トノ間ハ當分曖昧ニシ置クヘシ

(「マーマーフーフー」ノ狀態ニナシ置クヘシト命ヲ變更セリ

(4)茲ニ於テ何故自分カ辭職セサリシヤトノ疑問アルヘキ處自分ハ當時梅津何應欽交渉問題アリシヲ以テ之ヲ解決セハ一歩ヲ進メ日支間ノ根本調整成立スヘシト思ヒ右協定ノ成立ニハ全責任ヲ以テ當リ之ニ同意セル次第ナリ其ノ爲遂ニ自分等ハ襲撃セラレ唐ハ暗殺サルルニ至レリ

(5)當時「ヒットラー」ヨリ使者來リ日英獨支ノ防共協定締結方ニ關シ提案シ來リタルカ自分ハ之ハ妙案ナリト思ヒ乗出シ蔣モ當初同意シタルヲ以テ自分ハ赴歐セルニ(先方トノ會見日モ定メラレアリタリ)「マルセーユ」ニ到着前蔣ヨリ變意シ防共協定締結一件ハ取止メトスル旨訓令アリ極メテ「オークワード」ノ地位ニ立チタルコトアリタリ蔣ノ變意ハ實ハ後ニ至リ判明セルコトナルカ陳立夫カ壽府ニ赴キ「リトヴィノフ」ト會見シ親蘇政策ニ變更サレタルカ爲メナリ

(6)結局蔣ハ日本カラ壓迫アレバ一寸肩ヲスカシ又他國



ヨリ好餌アレハ直ク之ニ喰付ク性質ニシテ信念乏シキ人物ナリ

註、此ノ點ハ高宗武モ上海事變直前ニ於テ蔣ヨリ下命アリ上海ニ來リ喜多少將ト會見中ニモ蔣ヨリ突如命令ヲ變更シ歸還命令ニ接シタルコトアル處用ヲスマセ歸京セルニ蔣ハ何故早く歸リタリヤト詰問セラレタルコトアリ蔣ハ常ニ命令ニ固定性ナキ旨ヲ述ヘ居リタル事實ト符合ス

四、五月六日汪ト影佐ノ第二次船中會見ニ於ケル汪ノ談話要領左ノ如シ

(一)本日横田實君ノ中央公論ニ掲載セル論說ヲ見タル處文中重慶政府中ニハ陳誠及周恩來等ヲ中心トスル徹底的抗日分子ト陳立夫陳果夫ノ如キ和平派トノ對立アリト見テキル様ナルカ之ハ正シキ見方ナリ

陳立夫ハ一時親蘇ヲ唱ヘタルモ今ニテハ全ク蘇聯ニ愛憎<sup>(憎)</sup>ヲツカシ之ト協力スル意ハ毛頭ナキ様ナリ一日モ早ク和平ヲナシ蘇聯ノ術策ニ陥ルヘカラスト強調シ居レリ

黃埔系モ大部分ハ和平派ナルカ只CC團、黃埔系共ニ

蔣ヲ頭ニ戴キ之ヲ立テントスルカ故ニ同シク和平ヲ唱フルモ汪派ノ如ク反蔣派ニ非サルヲ以テ兩者ノ間ニハ相異アリ

註、是於影佐ヨリ上海ニ於ケル丁默村ノ運動ヲ話シタルニ汪ハ反蔣ニ非サルヲ以テ一沫ノ疑問モアル處實ハ丁默村ニ關シテハ周佛海ニ於テ之ヲ推獎シ居ル次第ナルカ自分ハ一面識モ無キ人物ナリト語ル

(二)蔣政權ノ内部ヲ切り崩スニハCC團ト黃埔系トヲ我方工作ニ抱込ム必要アリト思フ處之ニハ反蔣ヲ眞向ヨリ振リカサシテハ到底覺束ナク從ツテ反蔣ト觀念上ノ矛盾アリ余ハ反蔣ヲナスニハ充分ナル論理的説明ヲナシ得ル自信アル處前述ノ矛盾アリ仍テ反蔣ニテ行クカ反共ノミニテ行クカノ二途アル處日本側ハ何レヲ採ル意ナリヤ若シ日本側ニテ討蔣ニテ行クコトヲ要求セラルルナラハソレニテ進ムモ之ニテハCC團、黃埔系ヲ抱込ムコトヲ得スト信ス

又日本ハ必スシモ反蔣ヲ要求セラルルニ非スト思ハルル節アルヤニ察セラル若シ蔣介石カ反共ノ態度ヲ表明

シタナラハ日本ハ必スシモ相手ニセストイフ次第二ハ非サルヘキカ如何ト聞キタルヲ以テ影佐ヨリ蔣ヲ相手トスルハ既ニ河内ニテモ申上ケシ如ク一月十六日ノ聲明ニ反スト答ヘタルニ「然ラン」ト汪ハ述ヘタル上土肥原氏ノ話カ出テ近衛聲明ノ後土肥原氏ハ之ニ關シ談話ヲナシタルコトアルヲ見タルカ之ニ依レハ蔣政權ヲ相手トセストイフモ若シ蔣ニ於テ齟齬シ誠意ヲ披瀝セハ必スシモ之レヲモ相手トセストイフニ非スト言ヒ居ラルル様ニ記憶スルカ如何ト尋ネタルニ付影佐ヨリ右ハ半分眞ニシテ半分誤ナリ此ノ際一應貴下ノ誤解ヲ解キ置ク必要アリト思フ故ニ御説明申上クル處蔣政權ヲ相手ニセストイフハ日本ノ確乎不動ノ方針ニシテ毫モ變更スルノ餘地ナキ處重慶政權カ反共ヲ實行セハ日本ト利害ヲ一ニスルヲ以テ停戦ハナシ得ヘク此ノ停戦ノ相手トシテハ蔣ト話合ヲナスコトアルヘキモ和平交渉ト停戦トハ別個ノ問題ナリ而モ重慶政權カ其ノ人的構成分子ヲ改善シ且新政權ノ傘下ニ合流シ來ルトキハ之ヲ抱藏スルコトアルヘキ處之ハ相手トスルニ非スシテ新政權ノ傘下ニ降り來ルコトナリト説明シ置キタリ

(三)要スルニ反蔣一點張りニスルトキハ蔣政權ハ奧地ニ固マリ強化サレCCC團、黃埔系ハ蔣ニツキ蔣政權ハ却テ強化サレ固マル結果ヲ來スカ故ニ寧口反共ヲ「スローガン」トナセハCCC團モ黃埔系モ同意シ我方工作ト合流シ得ルコトトナリ其ノ結果却テ蔣政權ノ力ノ潰滅ヲ早ムルコトトナルモノト思考ス

日本側ニ於テハ蔣ハ段々ト奧地ニ避ケ遂ニハ共產軍ノ苦力ニ墮セント見ル向アルヤニ察セラルル處蔣ハ決シテ共產軍ノ許ニ走ルコトナク寧口四川ヲ固メ西南ニ「ルート」ヲ作り之ヲ固ムルコトトスルナラン

反共ヲ「スローガン」トナシCCC團、黃埔系ヲ我方工作ニ抱キ込ミ蔣ヲ孤立セシメルコト寧口蔣ノ潰滅ヲ計ル所以ニシテ良法ナリト信ス

(四)重慶政權内ニモ我ニ同意スルモノ相當多キ處河内ニテ申上ケシ如ク仲々蔣ノ監視嚴シク意ノ如クナラサルヲ如何ニセン

(五)曩ニ貴方ト話合ヲ遂ケタル防共救國同盟會ノ方法ニテ工作ヲ進ムル案ハ大公報ニヨリ曝露サレタルヲ以テ方法ヲ變更スルノ要アリト思考ス

仍テ中央政權ヲ樹立シ之ヲ日本ニヨリ承認サレ之ニテ  
同盟會ノ方法ニ代エルコトヲ以テナサント思フ中央政  
權ノ名稱ハヤハリ國民政府トナシ之ニ國民黨ノミナラ  
ス各派ヲ抱藏シ旗ハヤハリ從來ノ國民政府ノ用ヒタル  
青天白日旗トナシ民心ヲツナクヨリ方法ナカラント語  
リ影佐ヨリ日本カ目下戰爭相手トナシ居ル軍隊ノ使用  
スル青天白日旗ヲ其ノ儘使用スルハ如何トテ之ニ反駁  
セルニ之ハ後日協議スルコトシテ深入リセス

註、別ニ周佛海ハ愈國旗ノ問題カ六ヶ數クナル様ナ  
ラ五色旗ノ地ニ片隅ニ青天白日ヲツケタラ如何ナ  
ルモノナリヤト云ヒ居リタリ

又國民黨ノ名稱使用ハ我慢セラレ度ク國民黨トイフカ  
惡キト日本側ニハ申ス方モ多カランカ右ハ聯露容共時  
代ノ國民黨ノミヲ知ル人ノ言ナレハ此ノ爲ニ國民黨ヲ  
更生シ様トイヒ居ル次第ナレハ此點諒解セラレ度ク此  
ノ點ハ政府成立ノ際宣言ヲ發シ天下ニ表明スル準備ヲ  
有スル次第ナリ

(六) 現ニ存在スル北支、中支等ノ諸政權ハ必スシモ解消ス  
ルコトヲ要求スル次第ニハ非ス既存ノモノハ能フ限り

其ノ儘トスル考ナリ、只國民政府ヨリ地方政府ハ任命  
スルコトトシ度シ又カクスルコトハ漢奸ノ汚名ヲ着サ  
ルコトトナリ同志獲得ニ便ナリ現ニ北支ノ王克敏ヨリ  
ハ懇篤丁重ナル書翰ニ接シ居リ維新側ノ陳群及任援道  
ヨリハ汪ノ出馬ノ際ハ之ニ合流スル旨ノ書翰ニ接シ居  
レリ

註、周佛海ハ側ヨリ口ヲ入レ北支ハ其ノ儘トナシ名  
稱位ヲ政務委員會等適當ニ變更シテハ如何ト存居  
ルモ維新政府ハ首都ノ膝元ナレハ新政府ノ中ニ抱  
合シテハ如何ト存スト述ヘタル趣ナリ

五、其ノ後汪ノ上海上陸後會談ヲ續クル中汪ハ河内ニテハ嘗  
テ高宗武ヲ通シテ申上置キタル所謂三個ノ提案中ノ第一  
案即チ蔣ヲシテ時局ヲ收拾セシムル云々ハ最早情勢ノ變  
化上ナス意思ナキヲ以テ之ヲ撤回スル旨ヲ表明セリ  
又今後ハ同志ハ上海ニ於テ工作スルモ陳璧君、陳公博、  
沈松ニ於テ香港ヲ中心トシテ西南軍事工作ヲ主宰スル旨  
語リタル趣ナリ

(付記一)

渡邊工作關係電報

昭和十四年五月八日

大本營陸軍部第八課

影佐及今井ヨリ(八日午前〇時二〇分着)

一、御蔭ヲ以テ七日午后安着セリ、本日ハ船中ニ宿泊セシム  
二、汪ハ先着同志ヨリ上海ノ實情ヲ聴取セル結果丁默邨<sup>モウゾン</sup>其他  
ノ知己工作進展後ニアラザレバ汪自ラ行フ工作頗ル困難  
ナルヲ認識セルガ爲此ノ際上海案ヲ一時放棄シ丁等ノ工  
作奏功ヲ待ツ期間ヲ利用シ成ルベク速カニ東京ニ赴キ日  
本側政府當路者ト直接意見ヲ交換シ今後ノ方針決定ニ資  
シ度キ希望ヲ表明セリ  
以上當方トシテモ寧ロ希望スル所ト思考セラルルモ各方  
面ニ影響スル所ヨリ考フベキヲ以テ貴方ノ意見ニヨリ決  
定致シ度  
至急何分ノ御回答ヲ乞フ

(付記二)

渡邊工作關係電報

影佐及今井ヨリ(九日二二時二五分着)

貴電第三七六號返

一、汪ノ日本行ノ眞意ハ反共親日ノ爲蹶起セル決意ヲ披瀝シ  
テ其ノ誠意ヲ表示スルト共ニ今後ノ時局收拾<sup>(拾)</sup>ニ關シ日本  
側當事者ト隔意ナキ意見ヲ交換セントスルニ在リ

之ガ爲彼等ノ行動ヲ成ルヘク祕匿センコトヲ希望スルモ  
工作目的達成ノ爲ニハ止ムヲ得ス一部ハ曝露スルコトア  
ルモ敢テ回避スルモノニ非ス

二、汪等ハ八日上海ニ上陸シ豫ネテ當方ニテ準備セル陸戰隊  
裏通りノ住宅ニ滞在中ニシテ東京附近ノ宿舍準備完了迄  
當地ニ在リテ南支方面ニ對シ一時工作ヲ續行スル予定ナ  
リ

但シ貴方ノ準備出來次第成ル可ク速カニ飛行機ニテ約十  
名ノ者ヲ滯同シテ東京ニ赴キ度キ希望ナリ  
詳細ハ今井明十日歸京ノ上報告ス

(付記三)

渡邊工作一件

白井大佐トノ連絡要領

(昭和一二、五、一〇)

一、汪精衛來朝ニ關スル今井大佐稟請電ニ關シテハ參謀本部關係官會議ヲ開催シタルカ之ヲ差支ナシトスル意見ト時期尙早ナリトスルモノト種々アリ結局一應汪來朝ノ眞意ヲ確カムルコト然ルヘシトノコトトナリ上海ニ電報シタル結果九日附今井大佐ノ返電ヲ得タル次第ナリ

二、汪精衛來朝シ中央政權樹立等ニ付我カ政府首腦者ト意見ヲ交換スルコトトモナラハ右ハ既ニ謀略ノ範圍ヲ出テ我對支政策上極メテ重要ナル問題タルヘキニ付豫メ案ヲ具シテ五省會議<sup>(相考)</sup>ノ議ヲ經ル要アリト思考シ居リ旁今井大佐歸京(都合)ニ依リ明十一日トナル筈<sup>(相考)</sup>シ委細ノ事情報告アリタル上ハ右五省會議ニ提出スヘキ案等ニ付外務省トモ相談致シタキ考ヘナリ

三、田尻香港總領事目下滯滬中ノ趣ナル處同總領事ハ從來本件工作ニ深キ關係アリ今後モ其ノ十分ナル協力ヲ得サルヘカラサルニ付テハ此ノ際御差支ナクハ一寸東京迄足ヲ延ハシテ貰ヒ種々打合セヲ爲スコトヲ得レハ好都合ナリト存シ居レリ然ルヘク上局ニ御取次ヲ請フ

454

昭和十四年五月十六日

汪工作の進め方に関する田尻香港總領事と今井大佐との会谈要旨

付記一 昭和十四年五月十三日、東亜局作成

「竹内」ニ對スル方針大綱(其ノ一)

二 昭和十四年五月十三日、東亜局第一課作成

汪兆銘中心の事変取扱策に関する興亜院政務部長の見解

竹内工作ニ關スル今井大佐トノ會談記

田 尻 總 領 事

(昭十四、五、十六)

本件ニ關シ五月十五日臼井大佐(參謀本部第八課長)ト會見ノ際臼井ハ竹内氏對策ニ付中々部内ノ意見纏マラス又五相會議モ他ノ重要政策ニテ手一杯ナルカ如キヲ以テ果シテ五月二十五日迄二案力出來上ルヤ心細キモノナリト洩ラシ居リタルカ更ニ二十六日今井大佐モ同様ノコトヲ述ヘタリ今井トノ會談要領左ノ通り

一、竹内ノ來訪差支ナキ旨ハ今井カ上海ヨリ歸京シタル十三

日ノ夜部内ノ意見ヲ取纏メ早速電報シ置キタルカ右ハ同氏ト意見ノ交換ヲ爲スニ何ノ不都合アリヤトオッカブセタル結果ニシテ部内殊ニ少壯階級ハ決シテ納得シタ譯ニアラス少壯階級ハ竹内ト意見交換ノ上ハ彼ニ中央政府ヲ組織セシメ直チニ之ヲ承認スルコトニ引ヅラルル危險性アリ然ルニ彼カ果シテ中央政府ノ首班トシテノ實力アリヤハ疑問ニシテ吳佩孚ノ方カ余程善キヤモ知レス兎ニ角竹内カヤルト言フナラ彼自身ノ力ニテ工作ヲ進メシメ情勢ヲ見極メルニ若カスト稱フカ如キ見解ヲ有シ而モ依然トシテ強硬ニ之ヲ主張シツツアリ(現ニ小生ト今井トカ中食ニ出カケル際自働車ニ乗り合シタル作戰課堀場中佐ノ如キモ車中ニテ今井カ大臣ニ自分ノ意見ノミヲ上申シ堀場ノ意見ヲ取次カサルハ不都合ナリト詰リ居リタリ)

二、右ニ對シ今井ハ竹内ヲ引出スハ聯合委員會設立ノ繼續ニシテ而モ竹内ハ幹事長格ニ過キス誰カ中央政府ノ主班トナルヤハ工作進行ノ上決定セラルヘキコトニテ竹内以外ノ人カ出テモ何等差支ナシ又中央政府ヲ承認スルヤ否ヤハ政府ノ實力ヲ見極メタル後初メテ問題トナルコトニシテ君等ノ懸念スルカ如キ危險ナシ又今井トシテモ作戰ニ

障碍ヲ來スカ如キコトハ決シテセヌ故心配スルナト本日モ各方面ヲ説得ニ努メ居ル情況ニテ未タ對策ノ内容ニ觸レル所迄ハ行キ居ラス

三、今井ノ考ニ依レハ竹内工作ハ次第二政治工作ニ轉換スヘキモノニテ昨日モ自分ノ部下ニ於テ本工作主任班トシテ影佐ノ下ニ外、海及興亞院ヨリ係官之ニ參加スル組織案ヲ出シ來レルカ(今井ハ興亞院ハ必要ナシト言ヘルモ感情問題起リテモ馬鹿ラシキニ付是非トモ右様致シ度トノコトナリシニ付贊成シ置キタル由)出先ハ右ニテ宜シトスルモ中央ニテハ何分ニモ自分カ本工作ノ關係者ナル爲余リ強キ主張ヲシテヒイ、キノ引倒シトナルハ面白カラス寧ロ外務省ヨリ對案ヲ出シ外、陸、海ニテ協議スル形ヲトラハ却テ纏リ早カルヘク右様取計ヲ得ラレサルヤ東亞局ト相談ヲ煩シ度(小生ヨリ贊成シ置キタリ)

四、竹内トノ會談ノ基礎トナル各事項ニ付今井ノ意見トシテハ

(一) 新中央政府工作ノ「スローガン」ハ反蔣ヨリハ反共ノ方宜シ

(二) 既存政權ノ調整ニ付テハ竹内ハ必スシモ之カ解消ヲ要

求セスト言ヒタルヲ周（佛海）カ引取りテ北方ノ政府ハ右ニテ可ナルモ維新政府ハ左様ニハ行カサルヘシト註釋ヲ加ヘタルカ自分モ此ノ點ノミニテ會談カ決裂スル場合ハ右ニ妥協シテモ仕方ナシ但シ何トカ中支ニ實力ヲ殘シ度キモノト考ヘ居レリ（ト言ヘルニ付小生ヨリ右ハ分治合作方針ヲ變改スル意向ト解釋シテ可ナリヤ又廣東漢口ニハ新政權ヲ作ル考ナキ意味ナリヤト訊シタルニ對シ今井ハ然ラス出來得レハ分治合作ニテ進行シ度ク竹内カ右ニ同意スルコトヲ期待シ居リ且其ノ上ハ彼ノ内意モ伺ヒ彼ト協力シ得ル人物ヲ求メ廣東漢口ニモ速カニ地方政權ヲ樹立セシメ度モ如何ニシテモ同意セヌトキハ仕方ナキニアラスヤ尤モ好案アラハ承リ度トノコトニ付小生ヨリ萬已ムヲ得サレハ中支ニハ現存ノ經濟合作ヲ擁護スルニ足ル機關ヲ作り我慢スル外ナカルヘシ兎ニ角當初ヨリ分治合作ヲ放棄スル考ナキコトハ結構ナリト繰返セルニ對シ其ノ通ナリト答ヘタリ）

（三）國民黨專制問題ハ之ヲ主張セサル先方ノ意見ニ付問題ナシ（今井ハ楠本ノ別黨樹立工作ヲ承知シ居ラス）

（四）國民政府ノ名稱ハ何トカ形容詞テモ冠スルニ非サレハ國內的ニ纏マラサルヘシ

（五）旗ハ竹内ニ對シ青天白日旗ヲ認メルコトハ作戰ヲ阻害スル心理的惡影響アリ反對ナル旨表明シ置キタルカ何トカ先方ヨリ妥協シ來ルヘシ

五、仍テ小生ヨリアル東亞局員ノ試案ニテ又未タ完成シ居ラサルモノナリト斷リ別案ヲ示シタルニ對シ今井ハ政府承認ノ點ヲ書キ上ケラレテハ部内ノ意見到底纏ラス右ハ政府成立ノ上ノ現實ノ問題トシテ取扱適宜實行ニ移シ度

（右ニ對シ小生ヨリ新政府成立ハ對重慶工作ナルト共ニ對第三國工作ナル所ニ重大ナル意義アリト言ヘル處今井ハヨク承知シ居ルモ部内取纏メノ爲右様取扱ヒタシト繰返セリ）又政府及旗ノ點モ再考ヲ煩シ度其ノ上ニテカカル案ヲ外、陸、海會議ニ提案願ヒ度ト言ヘリ

六、今井ノ考ニ依レハ對案ハ余リ「リヂッド」ナモノトセス余裕ヲ殘シ置キ竹内トノ會談ニ當リ一ツノ雰圍氣ヲ作ル基礎トシ度カカル氣持ニテ立案願ヘレハ結構ナリトノコトナリ

七、今井ハ本工作ハ本工作トシテグン々々進行スヘキコト勿

（欄外記入二）

論ナルカ一面重慶ノ情態ヲ専門ニ睨ミ居ルコト必要ナルカ陸軍ニハ目下カカル人物ナク甚タ遺憾ナリ但シ重慶ノ所謂和平空氣ノ擡頭ニ付テハ上海滯在中研究シタルカ右ハ蔣力下野セストモ宜シトノ誤解ニ負フ所多ク當分モノニナラストノ結論ヲ得タル處如何ト問ヘルニ付小生ヨリ同様ノ觀察ナル旨ヲ答ヘタルニ對シ香港ニテ此ノ上トモ不絶重慶側トノ聯絡ニ努メラレ度趣旨ヲ述ヘタリ(本件ニ付テハ相當突込ミタル意見ノ交換ヲシタルモ略ス)

(欄外記入一)

「吳」工作トノ關係モ早目ニ決定シオク必要アルベシ

現ニ本工作近ク再ヒ軌道ニノラントスルカ如キ情報アリ

(欄外記入二)

「承認」ハ絶對ニ讓歩出來ズ——コノ點ヲ曖昧ニシテハ結局無

意味ニ終リ無用ノ混雜ヲ招ク結果トナルベシ

編 注 本文書付記一と思われる。

(付記一)

(欄外記入)

(昭和一四、五、一三 亞)

「竹内」ニ對スル方針大綱(其ノ一)<sup>(編注)</sup>

一、「竹内」ニ於テ支那事變對處及日支新關係調整ニ關シ帝國ノ堅持スル根本方針ト原則的ニ合致スル意見抱負ヲ有シ且自ラ時局收拾ニ當ルノ決意ヲ有スルニ於テハ(之ヲ確ムル爲「竹内」ヲ東京ニ招致ス)帝國ハ「竹内」ヲ首班トスル新中央政府ノ樹立ヲ支持助長シ之ト兩國國交ノ調整ヲ協定シ更生新支那ノ建設ニ協力スルモノトス。

二、新中央政府ノ樹立工作ハ當初ノ「渡邊」工作方案ニ於ケルト異リ「救國反共同盟會」及「救國反共同盟軍」ノ結成竝ニ西南地方政權ノ組織ヲ俟タスシテ着手スルモノトス。  
三、新中央政府成立ノ時期ハ本年秋双十節頃ヲ目途トスルモノトス。

四、新中央政府ノ首都ハ南京トスルヲ妨ケサルモノトス。  
五、新中央政府ハ道義の基礎ニ基ク日滿支連環體制ヲ中核トスル東亞新秩序ノ建設ヲ其ノ指導政策ノ眼目トスルト共ニ其ノ當面ノ施策ノ重點ヲ反共和平ニ置クモノトス。  
六、新中央政府成立ノ上ハ帝國ハ遲滯ナク之ヲ承認シ日支新關係調整ニ關スル所要ノ條約ヲ締結スルモノトス。



七、臨時政府ハ華北政務委員會ニ改組シ該委員會ハ北支ニ於ケル行政ニ關シ廣汎ナル權限ヲ賦與セラルモノトス。  
八、蒙疆ハ高度ノ防共自治區域トシ現存政權ノ存續成長ヲ認ムルモノトス。

九、維新政府ハ華中經濟復興委員會ニ改編シ（南京以外ノ地例ヘハ蘇州ニ移ス）華中ニ於ケル經濟復興ニ關シ相當廣汎ナル權限ヲ賦與セラルモノトス。

十、新中央政府ノ名稱及國旗ニ付テハ成ルヘク支那側ノ希望ヲ容ルル如ク考慮スルモノトス。

（欄外記入）

（本案ハ未タ局間ノ協議モ濟マサル一局員ノ一試案ナリ）

編 注 「（其ノ二）」の下部に「續キ作成中」との書き込みあり。

（付記二）

渡邊工作ニ關スル興亞院鈴木政務部長内話ノ件

（昭和一一、四、五、一三、亞、一）

五月十三日土田東亞一課長ヨリ鈴木政務部長ニ對シ本工作最近ノ情勢ヲ説明シタルカ其際土田ヨリ聞ク所ニ依レハ陸軍現地機關中ノ或者ハ事變收拾ノ鍵ヲ汪精衛ニ求ムルコトニ付反對ノ意見アル趣ナルカ如何ト質シタル處同部長ハ然ルコトハ斷シテナシト強ク否定シタル上實ハ過般自分カ北支及中支ニ出張シタル際ノ重要用向ノ一ハ本件ニ關スル出先軍側ノ意向ヲ統一スルニアリタル次第ニテ自分ノ接シタル範圍ニ於テハ主要陸軍官憲ニ於テ誰一人之ニ反對スル者ナカリキ喜多中將原田少將モ勿論熱心ニ同意セリ仍テ昨十二日陸、海、外、藏四大臣ニ對シ旅行報告ヲナシタル際前記現地ノ統一セル意見ヲ報告シ且自分ノ意見トシテ事變收拾ノ途ハ之ヨリ外ニナシト信スル旨強調シ置キタル次第ナリ之ニ對シ四大臣ハ悉ク同意ヲ表サレ居タリ板垣陸相ニ對シテハ萬一陸軍部内ニ之ニ反對スル者アル時ハ斯カル人物ハ時局收拾ト關係ナキ方面ニ於テ執務セシメ本件ニ付テハ時局收拾ニ熱心ナル人物ヲ以テ固メ飽迄所期ノ目的ヲ達スル様致度旨進言シタル處陸相ハ其ノ通り措置スヘシト答ヘ居リタリ實ハ自分ヨリ興亞院ノ部下ニ對シ中央政府樹立ノ形式ニ關スル一案ヲ立案方命令シ置ケルカ其ノ大綱ヲ申上

（欄外記入）

クレハ

一、中央政治委員會ヲ速ニ設置シ委員長トシテ汪精衛ヲ据ヘルコト同委員會ハ大体南京ニ置クコト

二、北京、蘇州、漢口、廣東、桂林其ノ他ノ重要地點ニ政治分會ヲ設置シ分會長ヲ中央政治委員ニ任命スルコト

三、大体前記二項ノ機構ヲ以テ三年間位經過セシムルモ其ノ間ニ於テ支那側政治、軍事兩方面ノ實力者ヲ新中央政權ノ傘下ニ集メル様努力スルコト

四、右實力派ノ各地域ニ於ケル實際的把握狀態ヲ見極メタル上漸次治安確保ノ責任ヲ支那側ニ譲リ日本軍ハ漸次撤退スルコト

五、各分會管轄地域内ノ情勢ヲ常ニ凝視シ漸次中央集權ニ趨ク様措置ス(即チ分會ノ解消)

ノ諸點カ自分ノ考ノ重點ナリト説明セリ

仍テ東亞一課長ヨリ外務大臣ニ於テモ本件收拾策ノ成功ヲ熱心ニ考慮シ居リ吾々事務當局ニ於テ政務部長考案ノ如キ收拾策ヲ銳意立案中ナルニ付孰レ參謀本部方面ノ考モアルヘク諸方面ヨリ出テ來ルヘキ案ヲ突キ合セ日本側ノ最高方針ヲ決定シ先方ニ對シ帝國不動ノ態度ヲ明瞭ニ傳ヘ其ノ線

ニ從ヒ先方カ重大決意ヲ以テ新支那建設ニ邁進スルヤウ仕向クルコト現下最大ノ緊要事ナリト思考シ居レリト述ヘ置キタリ

(欄外記入)

コノ點ハ言ヒ過キナラズヤ

~~~~~

455

昭和14年5月17日

在上海佐藤(信太郎)総領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

上海租界内のテロおよび抗日空氣に対する丁

黙邨らの肅清運動と汪工作との結合機運につ

き報告

上海 5月17日後発

本省 5月17日夜着

第一三四二號(館長符號扱)

往電第三七六號ニ關シ

森島參事官ヨリ

丁黙村ハ其ノ後李士群以下在滬同志ト協議ヲ重ネタル結果冒頭往電ノ趣旨ニ基キ上海ヲ中心ニ運動ヲ展開スルコトニ

肚ヲ定メ先ツ第一步トシテ租界内ノ「テロ」勢力及擁<sup>〇</sup>共抗日空氣ヲ蕭清<sup>(電)</sup>シ之ニ依リ一般民間ニ於ケル和平空氣ヲ蘊釀セシムルコトニ重點ヲ置クコトトシ四月一日本件運動ノ中樞機關タル籌備委員會(丁ヲ首班トス)及特務工作機關等ヲ成立セシメ運動ヲ開始セル處之ヨリ先當方ニ於テハ本件運動ヲ汪精衛側運動ニ結ヒ付クヘク適宜指導シタル結果丁等モ欣然之ニ同意シ過般周佛海着滬後丁ハ直ニ周ト會談ヲ遂ケ又曩ニ同志ヲ香港ニ派シ汪派ト聯絡シ爾來引續キ種々打合シタル上運動ヲ進メ更ニ汪精衛トノ會見(周及李同席)ニ於テモ汪ハ丁等ノ工作ニ對シ全幅的信賴ヲ言明セル趣ナリ右運動ノ實際工作ハ三月上旬頃ヨリ開始シタルカ其ノ後陳立夫等重慶脫出當分困難ナル和平派要人及同志トノ聯絡モ大體順調ニ進捗シ内地ヨリノ中堅活動分子引拔モ漸次成功ヲ收メツツアリテ既ニ二十數名ノ來滬ヲ見タル趣ニシテ又市黨部言論、文化、教育、商工、青年及婦女等ノ各界ニ對シテハイザト言フ時ニ一齊ニ活動セシムル如ク施策シツツアリ又租界内ニ於ケル「テロ」勢力ノ撲滅工作ニ付テハ極秘裡ニ工作ヲ進メツツアリ尙過般我方租界内當局ニ提出セル租界内政治運動取締方要求ハ目下ノ處本件工作ニ極メ

テ好影響ヲ及ホシ居ル模様ナリ本件ハ極メテ機微ナル關係アリ部外絕對極秘ニ願度シ

~~~~~

456

昭和14年5月30日

在香港田尻總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 新中央政府の母体となる汪兆銘中心の統一政

權を速やかに樹立すべき旨意見具申

香港 5月30日後発

本省 5月31日前着

第六八一號(極秘、館長符號扱)

<sup>(1)</sup>第三國際及蘇聯ハ國民黨カ浙江財閥ノ背景ヨリ脱ケ出シ支那民衆ヲ根幹トスルモノニ變質シツツアルヲ以テ之ニ引續キ支持ヲ與ヘントノ口實ニテ對支援助ヲ理由付ケ居ルカ如ク一方蔣介石トシテハ共產黨少クトモ其ノ幹部カ表面上主義ノ宣傳ヲ止メ抗日意識ヲ主張シ居ル關係上下ツ端ノ者力行過キタル國民黨ノ牽制及自黨ノ勢力擴張ニ力ヲ注ギ居ル事實アルモ夫レニ對シ眼ヲ瞑リ抗日戰線ノ統一ニ共產黨ヲ利用スル立場ニ置カレ從テ之ト絶縁スルカ如キ意嚮ナク又假ニ縁ヲ切りタクモ西安事變以來ノ因

縁ニ絡マレ如何トモ手ヲ下シ得サル處然リトテ國際情勢ノ現段階ニ於テ進シテ蘇聯トノ關係ヲ更ニ深メルカ如キコトモ爲ス意嚮ナク孫科ノ活動モ之カ爲掣肘ヲ受ケ左シタル結果トナリテ現レス尙或ル方面ニ於テ蔣ハ和平實現ニ備フル爲共產黨及軍ニ對シ「クーデター」ヲ爲シ得ル様既ニ必要ナル中央軍ノ布置ヲ了セリトノ諜報アルモ右ハ事實ニアラス高々紅軍ノ跋扈ヲ恐レタル消極的防衛ヲ講シ居ルニ過キスト認メラル

二、中央軍五十萬ヲ基礎トスル主戰派ハ前記共產黨ノ外四川雲南、兩廣等ニ對シ抑エノ配置ヲ緩メス汪精衛ニ通セントスル者アリトモ手足モ出サセヌ狀況ナルカ之亦陳誠、胡宗南等カ和平ノ場合ヲ豫想シ李白等ノ反對ニ備フル遣方ナリトハ考ヘラレス元來和平問題ニ付テハ蔣ノ進退、政府要人ノ歸趨、中央軍ノ措置及支那ノ將來ノ四點ニ關スル見透シ如何ニ依リ重慶ノ態度決定セラルヘキ處他ノ三點ニ付テハ相當ノ見透シ立ツニ拘ラス軍隊ノ實力ヲ如何ニスルヤハ未タ論議サレタルコトナク彼等ノ將來ニ付何等保障サレタリト認メラレサル今日而モ殆ト疵ヲ負ハヌ中央軍ノコトトテ之ヲ内部的ニ和平ノ方向ニ轉換セシ

ムルハ容易ノコトニアラス況ンヤ彼等ヨリ蔣ニ抗戰不繼續ヲ表明スル動キアリトノ諜報ノ如キハ夢想トモ言フヘク斯ル意嚮ノ表示ハ寧口華僑ニ之ヲ求メ我工作ヲ茲ニ集中スヘキ筋ト考ヘラル

三、重慶ヲ始メ奧地ニ抗戰氣分強キハ事實ニシテ右ハ英大使ノ故意ノ宣傳ニ過キスト片附ケ得サルモノノ如ク奧地刊行物ヲ見ルニ民衆ニ動搖不平ノ徴ナキニ非サルモ重慶ノ抗戰宣傳地方產業開發交通路ノ開通各地融資等ノ努力ノ他第三國就中英國ノ援助ニ基ク民衆ノ抗日氣勢ハ案外田舎ニ迄浸透シ居ルモノト認メラレ又日本ノ獨伊同盟不參加ハ英蘇佛ノ勢力ニ押サレタル結果ナリトノ宣傳モ行ハレ假令我方近く平漢粵漢及此ノ東方地區ヲ確保スルモ重慶及民衆ノ抗日氣勢ニハ左シテ打擊ヲ與ヘルコトナカルヘシ

尙今次ノ抗戰ニ依リ獨立國トシテノ支那ノ存在ヲ第三國ニ認識セシメタルカ東亞ノ和平ハ右事實ヲ無視シテハ確保シ得ヘカラストノ重慶側ノ自信ハ牢固タルモノアリ右ハ汪派ニ於テモ同様ト存セラレ對支政策ノ根幹ニ觸ルル問題トシテ政策確立上絶エス考慮ニ入レ置クヲ要スヘシ

四、<sup>(4)</sup>

孔祥熙ヲ始メ重慶要人中ニ和平氣分強キハ事實ナルモ右ハ事新シキ次第ニ非ス又蔣ト緣故深キ張季鸞ノ如キハ支那復興ノ爲之以上ノ慘禍ヲ避ケタキ希望ヲ抱クニ至リ(重慶ヨリ然ルヘキ代表ノ來香方斡旋シテ見テモ可ナル旨ヲ洩ラセルモ目下病臥中)更ニ又汪精衛ノ主張ニ贊同シ重慶脱出ノ機ヲ窺ヒ居ル者鮮カラサルコトモ疑無キ處此等ハ謂ハハ地下運動ニシテ和平ヲ公然主張スルニ至ラス又三、四月頃重慶ニ和平氣分擡頭セルハ事實ナルモ右ハ日本カ蔣ヲ相手トスヘシトノ誤解ニ基ケルモノニシテ(詳細ハ過般報告セル通り)日本ノ態度ニ斯ル變化無キコト判明スルニ及ヒ宋美齡ハ再ヒ重慶ニ引返シ又或筋ニ對シ蔣カ代表ヲ派遣スヘシトノ消息モ立消エトナリ孔祥熙モ熱意ヲ失ヒ彼等ハ今ヤ再ヒ日本ノ和平條件ヲ探リ出サントスル態度ニ返リツツアリ

五、<sup>(5)</sup>

對李、白、工作ハ差當リ望ミ無ク(和知ハ目下漢口ニ於テ機會ヲ待チ居レリ)薛岳等ノ舉兵モ累次電報ノ通り遽ニ期待出來ス又福建工作モ未タ目鼻付カス何レモ我軍ノ大舉進撃ヲ見ルカ統一政府ノ樹立ヲ見ルコトニ依リ初メテ可能性ヲ生スル譯ニテ汪ニ先ツ地盤ヲ與フヘシトノ主

張ハ遺憾ヲ空論ト言フヘシ尙許崇智ハ汪トモ聯絡アリ廣東政府ノ首班トシテ適當ナルヘキモ出馬ヲ肯スルニハ時日ヲ要スル見込ナリ

六、斯ル情勢ニ於テ蔣介石ノ屈服ヲ望ムモ容易ノ業ニ非ス彼ヲ相手トストノ我方ノ聲明アラハ蔣ノ陳謝モ得ラルヘク共產軍ノ討伐ニ轉向セシムルコトモ不可能ナラサルヘキモ右ハ我方ノ爲スヘキコトニ非ス

<sup>(6)</sup>又謀略の二本件ハ取扱フ方法モナシトセサルヘキモ荏苒ト機ヲ過スヘキニ非ストセハ我對支方策ハ新中央政府ノ母體タル占領地統一政權ヲ汪ヲ中心トシテ速ニ樹立シ其ノ延長トシテノ各地方政權ヲ強化整備シ(廣東ニ於テ此ノ必要最モ大ナリ)防共國家群ニ於テ之ニ承認ヲ與ヘ斯テ戰爭ヲ内亂化スルコトニ依リ重慶陣營ノ分裂ヨリ(統一政府誕生ハ右可能性増大スヘシ)延テ之ヲ合流ニ導キ外ハ對外關係ノ處理ニ付彼ヲ矢表ニ立テ調整ヲ圖ルコト現下唯一ノ方途ナルヘク又日本トシテ新支那ニ求ムル國防及經濟提携ノ基礎條件ニ付汪トノ間ニ根本的了解成立シ得ルモノナラハ細部ニハ敢テ拘泥セスシテ一路新事態ノ發展ヲ急ク必要アルヘク然ラサレハ累次電報ノ通り重

慶及英國側等ノ逆宣傳ニ乗セラレ徒ニ困難ヲ増シ折角ノ機會ヲ失フ惧無シトセサルヘシ

七、以上ハ大體過般歸朝ノ節申述ヘタル所ナルカ會議ノ進行上何等御參考トモナラハ幸甚ナリ

457

昭和14年6月10日 平沼(騏一郎)内閣総理大臣 会談  
汪兆銘

### 平沼首相・汪兆銘会談要旨

平沼首相汪會談要領

昭和十四年六月十日 自午前八時  
至同九時半

汪、今日拜顔ノ上御指教ヲ仰ク機會ヲ得タルコトハ光榮ニ堪エス

平、貴下カ日支問題ノ爲メ努力セラレ居ルハ敬服スル所ナリ御承知ノ通り日本ハ上二萬世一系ノ皇室ヲ戴キ皇室ノ御趣旨ハ仁愛ノ道ヲ以テ人類ノ平和ヲ維持スルコト古來一貫セル所ナリ而シテ日本ハ武ヲ尊フ所謂尙武ノ國ナルカ武ハ此ノ御趣旨ヲ達成スル爲メノモノニシテ此ノ點ハ歐米諸國ノ武力トハ全ク異ナルモノナリ外國

人ハ往々此ノ義ヲ解セス日本ノ武ヲ以テ侵略ノ具ナリト看做スモノアルハ全ク此ノ仁愛ノ大精神ヲ知ラサルモノト謂フヘシ吾々ハ皇室ヲ輔翼スル責任ノ地位ニアルヲ以テ右御趣旨ノ實現ニ努力セサルヘカラス而シテ世界人類ノ平和ノ維持ヲ圖ルニハ先ツ東洋殊ニ日支兩國ノ間ニ永遠ノ平和ヲ招來セサルヘカラス之カ爲メニハ兩國ノ有力者互ニ協力シテ之カ實現ニ邁進セサルヘカラス貴下カ今回ノ事變ニ際シ日支兩國ノ爲メ奮起セラレタルニ對シ敬意ヲ表シ其ノ努力ヲ希フ次第ナリ

汪、日本ノ皇室ノ御精神ノ程ハ能ク諒解セリ就テハ御參考迄ニ支那現在ノ國民ノ心理ニ付キオ話致スヘシ現在日支平和ノ問題ニ關シ共產黨及共產黨ト連絡アル一部ノ者ハ其ノ眼中支那ナク又東洋ナク全ク「コミンテルン」ノ走狗トシテ活動シ居ルモノニシテ彼等ニ對シテハ奈何トモスヘキナシ即チ最後迄徹底的ニ打倒スルノ途ヲ取ルノ外ナシ其ノ他大部分ノ國民ニ至ツテハ何レモ心中和平ヲ欲シ日本カ數十年來ノ努力ニ依リ築キ上ケタル東洋先進國トシテノ地位ヲ認識シ日支兩國提携スルニ非サレハ東洋ノ平和ヲ確保スルニ途ナキコトモ

亦信シ居ルカ唯此ノ和平ヲ口ニ出シ得サル事情ニアリ夫レハ今尙大部分ノモノカ唯今オ話ノ如キ日本ノ眞意ヲ諒解シ居ラサルカ爲メナリ自分ハ曾テ蔣介石ニ對シ數十回ニ亘リ和平ヲ勸メタルモ彼ハ日本ト和スレハ支那全土ノ獨立ト自由ハ失ハルヘシ抗戰ヲ繼續スレハ假令一小部分ト雖モ占領セラレサル地域タケハ完全ナル支那國土トシテ存在スヘシトノ簡單ナル答ヲナスヲ常トセリ是レハ獨リ蔣ノ考ノミナラス大部分ノ者ノ考フル所ヲ代表シ居ルモノト見サルヘカラス即チ今日支那ノ民衆ハ依然トシテ日本カ是レ丈ケノ武力ト財力トヲ犠牲ニシタル以上恐ラク支那支配ノ慾望ヲ捨ツルコトナカルヘシト觀察シ居ルナリ日本政府力數回ニ亘リ發セル聲明ニ依リ尠ナカラサル希望ヲ支那國民ニ與ヘタルコトハ否ムヘカラサル事實ナルモ右希望カ果シテ具體的ニ實現セラルルヤ否ヤヲ危惧シ居リ斯カル氣持ハ重慶其他ノ方面ノ者ヨリノ通信ニ依ルモ窺フニ難カラス此ノ日本ノ眞意カ内地ニ届キ居ラサルコトハ宣傳方面ニ於テ缺クル所アルニ依ルヘク兩國識者今後ノ努力ニ俟タサルヲ得サル譯ナルカ共產黨ハ此ノ支那國民ノ

日本ニ對スル危惧ノ念ヲ利用シ和平ヲ言フモノハ賣國奴ナリト宣傳シテ壓迫ノ手ヲ加ヘ是レカ爲メ今日支那内地ニ於テ和平ヲ言フ事極メテ困難ナルノミナラス海外ニ於ケル支那人スラ容易ニ和平ヲ言ヒ得サル狀況ナリ

平、歐洲ノ國際關係ハ總テ利害ニ基キ利害ニ依リ相爭フヲ常トス彼ノ歐洲大戰ノ「ベルサイユ」平和條約ノ如キモ要スルニ各國ノ利害ノ打算ヲ基礎トセル不合理ナルモノナリ其ノ結果生レタル國際聯盟ノ如キモ要スルニ自己ノ利益ヲ主張シ合フ會議タルニ過キス既ニ早ク第二次世界戰爭ヲ勃發セシムル危險ヲ含ムモノナリ我カ東洋ニ於テハ決シテ此ノ歐洲ノ轍ヲ覆ムヘカラス宜シク道義ニ基ク關係ヲ樹立シテ永遠ノ平和ヲ確保シ再ヒ斯カル事變ノ起ラサルコトニ努ムルヲ要ス

日本ノ行動ハ此ノ東洋永遠ノ平和ヲ確保スル大目的ヲ達成スル迄ハ斷シテ停止スルモノニ非ス支那國民カ徹底的ニ日本ノ眞意ヲ諒解スル迄ハ何處迄モ之ヲ繼續スルコト予ノ斷言スル所ナリ殊ニ彼ノ共產黨ニ至ツテハ世界ノ平和ヲ攪亂スル人類ノ敵ニシテ其ノ存在ヲ許ス



ヘカラス吾人ハ最少限度先ツ東洋ノ天地ヨリ之ヲ驅逐セサルヘカラス彼レ思想ヲ以テ來レハ吾レ思想ヲ以テ之ニ對スヘシ而モ現在ノ狀勢ニテハ武力ヲ以テ之ヲ排撃セサレハ不可ナル程度ニアリ日本ハ共產主義ノ排撃ノ爲メニハ武力ニ訴ヘテモ飽ク迄之ヲヤリ遂ケル方針ナリ蔣介石ノ如キハ恐ラク心中日本ノ眞意ハ諒解シ居ルナランモ現在容共政策ヲ採リ居ル以上日本國民ハ彼ヲ信スルコト能ハス共產黨ト手ヲ切ラサル限り之ヲ許シ難キ次第ナリ

尙日支兩國ハ其ノ相互ノ經濟發展ノ爲メ緊密ナル提携ヲ必要トスル譯ニシテ兩國カ右反共ト經濟提携ノ共同目標ニ向ツテ邁進スルニハ茲ニ力強キ中央政府ノ樹立セラルルヲ要ス是レカ爲メニ貴下ハ全責任ヲ以テ之レニ當ラルルモノト予ハ確信シ其ノ成功ヲ期待スルト共ニ吾方ニ於テモ充分ナル援助ヲ與フヘキコト言フ迄モナシ要スルニ支那カ容共抗日ノ政策ヲ一擲シ新東亞建設ノ爲メ日本ト協力スルニ至ル様奮闘セラレタシ中央政府樹立ニ伴フ具体的工作ニ關シテハ陸軍大臣、海軍大臣、其他關係各大臣ト委シク打合セラレ度シ

汪、微力ナカラ中央政府樹立ニ付努力スヘシ尙之カ具体的工作ノ進行ノ爲メ關係各大臣ト面談ノ機會ヲ與ヘラルコト誠ニ感謝ニ堪ヘス唯茲ニ御參考迄一二申述ヘタキ點アリ自分ハ曩ニ高宗武ヲ貴國ニ遣ハシ自分ノ意見ヲ述フルト共ニ總理始メ貴國政府當局ノ御意見ヲ聽取セシメタルヲ以テ貴國ノ御方針ハ大体諒解シ居ル所ナルカ第一、當時蔣介石カ驟然悔悟スレハ蔣ヲ相手トシテ和平ヲ實現スルモ不可ニアラサルヘシトノ豫想ナリシカ事今日ニ至リテハ右ハ殆ント見込ナカルヘシ第二ニ國民政府以外ノモノヲ聯合セシメ此ノ時局ヲ擔當セシムヘシトノ意見モアリカカル事態トナラハ吾人モ之ニ參加シテ微力ヲ盡スヲ辭セサルヘシト申述ヘ置キタルカ今日支那ノ情勢ヲ見ルニ國民黨ヲ除外シテ其ノ他ノ勢力ヲ以テ時局ヲ收拾スルコトハ極メテ困難ナリト思惟ス第三ニ自分ハ蔣カ時局解決ノ爲メ下野スレハ共ニ下野シ外遊スレハ共ニ外遊スルモ可ナリト云フ氣持ナリシカ蔣ハ之ヲ拒絕シ却ツテ立腹シ居ル狀態ニテ最早ヤ自分一人責任ヲ以テ起タサルヘカラサル羽目ニ陥リタリ



依ツテ自分ハ國民黨ヲ中心トシ之ニ各黨各派ヲ聯合セシメ容共抗日政策ヲ抛擲セル國民政府ヲ作ルコト最モ適當ナリト思惟ス蓋シ國民政府ノ形態ヲ存スルコトハ支那國民ヲシテ日本ノ壓迫ノ爲メニ亡ヒタリトノ念ヲ抱カシムルコトヲ避ケ重慶方面ヨリ多數ノ同志ヲ獲得スル爲メ便利ナレハナリ元來國民黨ノ標榜スル三民主義ニ對シテハ曩ニ高宗武ヲ派遣シタル際日本側ニテハ其ノ共產主義トノ關連性ヲ清算シ所謂新ラシキ三民主義ニ復活セサルヘカラストノ御意見ナリシカ右ハ誠ニ尤モナル御意見ニテ元來孫文先生ノ三民主義ハ共產主義トハ截然別個ノモノニシテ自分等ハ此後此ノ三民主義ノ眞意ヲ發揮スル爲メ最大ノ努力ヲ拂フ心算ナリ

平、共產主義ト完全ニ離レタル三民主義ノ下ニ國民黨ノ更生ヲ圖リ之レト他ノ各黨各派ヲ聯合セシメ中央政府ヲ組織シ容共抗日ノ政策ヲ改ムル途ヲ講スルコトハ贊成ナリ彼ノ重慶政府ハ今日既ニ中央政府ト言ヒ得サルモノニシテ若シ從來ノ態度ヲ改メ來ルニ於テハ日本ノ仁愛ノ精神ヲ以テ之ヲ容ルルニ吝ナラサレトモ重慶政府カ今次事變ヲ發生セシメタル責任タケハ到底之ヲ免ル

ル事能ハス即チ蔣介石ハ下野スルカ當然ナリ而シテ蔣カ下野シタル場合ト雖モ貴下ハ全責任ヲ以テ事ニ當リ重慶方面ノ者ヲ全部轉向セシムルニ一層ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ望ム要スルニ此後全責任ヲ以テ此ノ事業達成ニ努メラレンコトヲ要望ス

汪、自分ハ事ヲ舉ケタル曉重慶其他ノ方面ヨリ果シテ幾何ノ者ヲ集メ得ルヤ今斷言ヲ憚ルトコロナルカ少クモ國民黨ニ關スル限り黨ト共ニアルコト數十年ノ歴史ヲ有スル者ナルヲ以テ誓ツテ國民黨既往ノ誤レル政策ヲ改メ東洋和平實現ノ一勢力タラシムル事ハ自分ノ責任ニ於テ之ヲ斷行スルノ決意ナル事ハ茲ニ明言シ得ル處ナリ

平、充分御奮闘ヲ望ム

汪、自分ハ曾テ三十四年前東京ニ留學シ居リ當時總理カ司法官時代公ニセラレタル法律ニ關スル講義ヲ讀ミタル事アリ爾來敬慕ノ念ニ堪エサリシカ圖ラス面談ノ機會ヲ得テ欣快ニ堪エス

458

昭和14年6月11日  
板垣陸軍大臣  
汪兆銘  
——会談

板垣陸相・汪兆銘会談要旨

板垣陸相、汪會談要領

昭和十四年六月十一日 自午前八時  
至同十時半

初對面ノ挨拶ノ後

汪、過日河内滞在中貴大臣ヨリ自分ニ宛テラレタル書信中  
ニ反共ノ語アリシハ今日迄最モ印象深カリシ點ナリ第二  
ハカカル事變ノ勃發ニ關シ蔣介石ノ責任ヲ問フト云フ點  
ナリ責任ノ問題トナレハ自分ニモ關係アリ喜ンテ責任ヲ  
負擔スヘシ反共ニ至ツテハ自分ハ最モ重視スル所ニシテ  
獨リ支那ノミナラス東洋ノ問題ナリ蔣モ曾ツテハ反共ノ  
態度ヲ持シ數年ニ亘ル共匪討伐ヲ實行シタルカ民國二十  
四年ニ至リ一方自分ヲシテ獨逸トノ間ノ關係ヲ密接ナラ  
シムルト共ニ陳立夫ヲ蘇聯ニ遣ハシ「リトヴィノフ」ト  
會見セシメ蘇支聯絡ヲ圖ラシメタリ此ノ頃ヨリ蔣ハ蘇聯  
トノ合作ヲ目論見タルモノト看做スヘク次テ西安事變ニ  
至リ蘇支合作ハ決定的トナリシモノナリ現在英佛米各國

ハ何レモ日本ノ東洋ニ於ケル擡頭ヲ忌ミ支那ノ抗戰ヲ援  
助シ居ルモ支那ヲ援助シテ抗日戰ヲ實行セシメツツアル  
ハ依然トシテ蘇聯カ中心ナル事明白ナル事實ナリ斯クノ  
如ク蔣カ共產黨ト握手シ蘇聯ト合作シテ抗戰ヲ繼續シツ  
ツアルニ拘ラス一般國民カ蔣ヲ擁護シツツアル所以ハ偏  
ニ支那カ日本ニ壓迫セラレ印度ノ如キ地位ニ陥ルヘシト  
危惧シ居ルニ在リ從ツテ反共ノ聲ヲ擧ゲ得サルノミナラ  
ス却テ和平ヲ言フモノ排斥セラルル實狀ナリ中央軍ニシ  
テモ共產黨ニ接近シ居ルハ三分ノ一二過キス他ノ三分ノ  
二ハ反共ノ立場ヲ取リ心中和平ヲ希望シ居ルモノナルカ  
前述ノ如キ理由ニテ反蔣反共ヲ叫フコト能ハサル狀態ニ  
アリ從而彼等ノ對日危惧ノ心理カ解消スレハ忽チ反共ニ  
一致スヘシ自分ハ武漢ニ於テモ重慶ニ於テモ或ハ參政會  
中ノ國民黨以外ノ者トモ話シ合ヒタルカ何レモ反共ニハ  
異論ナク龍雲ノ如キモ十中八九迄自分ト共ニ旗擧ケスル  
コトヲ決意シタルモ遂ニ動クヲ得サルニ至レルハ斯クノ  
如キ國內ノ空氣ニ支配セラレタルニ依ル自分ハ民國十三  
年ヨリ十五年ニ至ル容共時代ニ政府部内ニ居リタルヲ以  
テ其ノ當時ノ責任ハ之ヲ負フモ其ノ後ハ終始共產黨ニ反

對シ今次ノ共產黨トノ合作ニ至ツテハ特ニ反對セル所ナリ而カモ重慶政府ノ態度前述ノ如キ狀況ナルヲ以テ遂ニ意ヲ決シテ重慶ヲ離レ反共工作ノ實行ニ移リタル次第ナリ

板、貴下ノ脱出前後ノ狀況其後ノ事情ニ付テハ影佐大佐ヨリ詳細ニ報告ニ接シ承知シ居レリ今日支那ノ國民力排日の心理ニ支配サレ居ルハ事實ナリ右ハ日本ノ眞意カ諒解セラレ居ラサルニ依ルモノト云フヘシ日本ノ國民モ當局モ數十年來常ニ日支親善ヲ目標トシテ努力シ來レルモノナリ之レカ實現セサリシハ誤解ニ基ク所多カルヘシ然ルトセハ誤解スル方モセラルル方モ責任アルヘシ唯茲ニ明言スルヲ得ルハ日本ハ斷シテ支那ヲ印度ノ如クスル氣持ナク東洋民族解放ノ爲外來ノ勢力ノ侵入ヲ防キ以テ東洋永遠ノ平和ヲ確保セントスルニアリ其ノ第一歩トシテ日支提携ヲ圖ラントスルモノニテ今次ノ事變ノ如キモ之ヲ聖戰ト信シ日支親善ヲ阻害スル共產黨及之ト結合セル蔣介石ノ抗日軍隊ヲ擊滅シ一般國民ヲ敵トスル觀念ハ毫モナシ現ニ現地ノ日本軍隊カ戰線ニ於テハ勇敢ニ敵ト戦ヒツツ善良ナル民衆ニ對シテハ愛撫ノ念ヲ以テ接シツツア

ルヲ見テモ明カナルヘシ殊ニ反共ニ至ツテハ獨リ支那國內ノ共產黨ノ問題ノミナラス滿洲國及支那ノ北境ニ迫ル蘇聯ノ脅威ニ對スル問題アリ日本ハ今や全國ヲ擧ケテ國內ハ勿論此ノ滿洲ノ北邊ニ對スル脅威ニ對シ徹底的ニ排除スルノ準備ヲナシ居レリ日本ハ反共ノ爲メニハ斯カル重大ナル決心ト準備ヲナシ居ル次第ナリ

汪、日本カ支那ニ對シ共同防共ヲ要求スルニ對シ支那國民一般ハ往々ニシテ之ヲ曲解シ日本ハ共同防共ノ名ヲ以テ支那ヲ自由ニ支配セントスルモノナルヘシト爲スモノ多シ之ニ對シ自分ハ日本ノ防共ハ決シテ胡魔化シニアラス從ツテ支那ノ統一ト強化ヲコソ希望スレ決シテ支那ヲ分化シ弱化セントスルモノニ非ス支那カ強クナリテコソ眞ニ共同防共ノ目的ヲ達シ得ヘケレハナリト説明シツツアリ自分ハ前ニ述ヘタル通り民國十五年以來絶對ニ共產黨ヲ容レサル立場ヲ取ルモノニテ今後反共工作ニ邁進セントスルモノナルカ其ノ第一歩トシテハ國民黨ノ主義精神ヲ生カシテ現在共產黨ノ下ニアル國民黨ヲ先ツ共產黨ノ上ニ立タシメサルヘカラスト決意シ居レリ孫文ノ素志モ日本ヲ兄トシ支那ヲ弟トシテ合作スルニアリタリ孫文ノ

主義ハ決シテ共產主義ニ非ス自分ハ第一段ニ此ノ孫文ノ  
 國民黨ノ主義製作ヲ明カニシ第二段ニ國民黨カ公開的ニ  
 日本ノ希望スル反共救國ノ要望ヲ受納セントスソレニハ  
 支那ト統一ト力量トカ必要ナリ吾人ハ固ヨリ國民黨以外  
 ノ各黨派ト聯合シテ進ム譯ナルモ中心勢力トシテハ依然  
 國民黨カ之ニ當ルヘキモノナリト信ス尙防共ノ爲メ國防  
 ヲ如何ニスヘキヤノ問題ニ付テハ日本側ヨリ篤ト御指教  
 ヲ仰キ度シ國內ニ於ケル辦法トシテハ先ツ有力ナル統一  
 政府ヲ作り共產黨勢力ヲ驅逐スルニ努ムヘキモノト信ス  
 板、有力ナル中央政府ヲ樹立スルコトハ吾人ノ固ヨリ希望  
 スル所ナリ唯茲ニ注意スヘキハ今次事變ニ際シ軍事ノ進  
 展ニ伴ヒ北支、蒙疆、中支等ニ新政權成立シ是等ノ地方  
 ニハ多數ノ日本人モ居住シ種々ノ關係ヲ生シ居ル事實ナ  
 リ此ノ事實ニ對シテハ相當尊重セサルヘカラス斯クシテ  
 各地方毎ニ日支ノ結合ヲ強化スルコトハ決シテ中央政府  
 ヲ弱化スル所以ニ非スシテ却ツテ日支ノ結合ニ依ル中央  
 政府ノ立場ヲ強クスルモノナリ此ノ點ハ充分考慮セラレ  
 タシ

尙次ニオ尋ネシタキハ三民主義ノ問題ナリ日本ニテハ三

民主主義ヲ危險視スルモノアリ殊ニ民生主義ハ共產主義ナ  
 リト云フカ如キ文句アルヲ以テ種々ノ誤解アリ今後カカ  
 ル誤解ヲ解ク爲メ適當ナル手段方法ヲ講スル必要アリ此  
 ノ點モ充分研究セラレタシ

汪、孫文ノ民生主義ノ講義ハ當時ノ狀勢上各潮流各思想ヲ  
 全部自分ノ方ニ引キツケ之レヲ國民黨ニ同化セント計リ  
 シ爲メカカル文句モアル譯ニテ全體ヲヨク味讀スレハ民  
 生主義ハ全然共產主義ト異ナル所以ヲ説キ結局「マルク  
 ス」主義ヲ捨テテ國民黨ノ主義ニ入レト勸メ居ル事明カ  
 ナリ固ヨリ今後三民主義ノ闡明ニ付テハ大ニ努力スル考  
 ナリ

尙中央政府樹立工作ニ關シ詳細ナルコトハ日ヲ改メテオ  
 話シ致シ度シ

459

昭和14年6月14日 有田外務大臣——會談  
 汪兆銘

### 有田外相・汪兆銘會談要旨

有田外相、汪會談要領

昭和十四年六月十四日 自午前八時半  
至同 十時半

汪、曩ニ高宗武ヲ貴國ニ派シタル際貴大臣ニ當方ノ意ヲ傳  
ヘ又御意見ヲ承リタルカ今回ハ直接總理始メ關係各大  
臣ニ面談ノ機ヲ得テ幸ナリ今回ノ事變ノ解決ニ當リテ  
ハ支那側ニ種々ノ困難ナル事情アリ此ノ困難ノ點ニ付  
テモ貴國當局ノ諒解ヲ得タキモノト考ヘ居レリ元來日  
支兩國ノ關係ハ數年來緩和スヘクシテ緩和セス却ツテ  
益々相離反スル傾向ヲ辿リタルカ其ノ原因ハ兩國互ニ  
相手方ノ態度ヲ責メ其ノ態度ノ轉換ヲ待ツニ日ヲ送り  
タルニアリ即チ滿洲事變後支那ハ日本カ滿洲問題ヲ解  
決セサレハ日本ト合作セスト主張シ日本ハ支那ニ誠意  
ナケレハ應シ難シト主張シ又日本ハ支那ノ歐米依存ヲ  
改メヨト要望スレハ支那ハ日本ノ侵略政策ヲ放棄セサ  
レハ歐米依存モ已ムナシト答ヘ今次ノ事變ニ當リテモ  
日本ハ支那ニ先ツ誠意ヲ示セト要求シ支那ハ平和ハ欲  
スル所ナルモ一度平和トナラハ日本ハ支那ノ自由獨立  
ヲ奪フニ非サト疑フ如キ始末ニテ何時モ循環論ニ終  
リ遂ニ眞ノ提携ヲ實現スル機會ヲ失ヒシハ遺憾千萬ナ

リ昨年末近衛聲明ニ於テ日支ノ共同目標ヲ提示セラレ  
支那國民ニ對シテモ一縷ノ光明ヲ與ヘラレタルカ右ノ  
希望カ果シテ實現セラルルヤ否ヤ今後具体化セサレハ  
尙安心シ得ストノ氣持ナリ近衛聲明ニ掲ケラレタル共  
同目標ノ如キハ實ハ數年來叫ハレ來リシモノニテ今次  
ノ事變ノ如キ大ナル犠牲ヲ拂ヒタル後漸ク之ヲ取上ク  
ルニ至リタルハ寧ロ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ今度コソハ  
是非此ノ共同目標ノ實現ニ依リ兩國關係ヲ立直ス様具  
体的方法ニ付テ貴國側ノ意見モ聞キタル上篤ト研究シ  
歸國ノ上ハ同志ニ之ヲ傳ヘ之カ實現ニ邁進シタキ考ナ  
リ

有、日支兩國ノ關係ハオ話ノ通り兩國當局始メ國民カ提携  
ヲ希望シナカラ遂ニ實現セスシテ今回ノ如キ重大ナル  
局面ニ遭遇シタルハ誠ニ不幸ナルカ之ヲ機會トシテ一  
大轉換ヲ遂クルコトニ努力セサルヘカラス此ノ轉換ヲ  
遂クル爲ニハ支那ニ確固タル和平ノ基礎ナカルヘカラ  
ス今回貴下カ奮起セラレテ中央政府ノ樹立ニ當ラルル  
ニ對シテハ總理始メ吾々同僚一致シテ支援スル所ナリ  
汪、此ノ機會ヲ利用シテ兩國關係ヲ轉換セシムルコトハ自

分モ全然同感ナリ唯之カ實現ニ當リテハ今尙強力ナル反對ト障害アリ其ノ一ハ共產黨ノ反對ナリ之ハ到底轉向ノ望ナシ其ノ二ハ共產黨以外ノ一般ノ國民ノ對日疑惑ノ心理ナリ彼等ハ平和ヲ希望スルコト痛切ナルモ今以テ日本ト和スレハ支那全土ヲ擧ケテ自由ト獨立ヲ失フヘク抗戰ヲ繼續スレハ失ハレサル土地丈ケハ自由ト獨立ヲ保持シ得ヘシト思惟シ居レリ共產黨モ此ノ心理ヲ利用シ政府ヲ引摺リテ抗戰ヲ繼續シ居ルモノニシテ此ノ國民ノ對日疑惑ノ念カ和平ニ對スル一大障害トナリ居レリ之ヲ是正スルニハ先ツ(一)宣傳ニ努力セサルヘカラス今日重慶ハ勿論香港上海ニ於テモ和平問題ヲ論シ得サル狀況ナリ依ツテ自分ハ同志ヲ糾合シテ先ツ日本ノ眞意ヲ宣傳スルニ努メタシ(二)次テ事實ヲ以テ國民ニ示スコト宣傳ニ優ル宣傳ニシテ最モ重要ナリ斯クセサレハ國民一般カ共產黨ヲ恐レス寧ロ日本ヨリ亡ホサルヲ恐ルル心理ヲ解消スルコト困難ナリ日支ノ共同防共問題ニシテモ支那ニ於ケル海軍ハ問題トナラサルモ陸軍空軍ハ存在スルヲ以テ之ヲ以テ防共ノ力トナシ得ヘシ支那ノ軍隊發達スレハ再ヒ抗日戰ヲ惹起スヘシト

ノ惧アルモ苟クモ日支カ眞ニ提携シ一致セル政策ヲ取レハ何等ノ危險ナシ即チ意見ノ一致セル所ニアル自由ハ決シテ衝突ヲ起ササルナリ

有、自分ハ田中内閣ノ時代亞細亞局長ノ職ニ在リ滿洲問題ノ解決ニ付南京ニ赴キ當時國府主席代理タリシ蔣介石ニ面會シ交渉シタルカ蔣ニ解決ノ決心ナク遂ニ彼ノ滿洲事變ノ勃發ヲ見ルニ至レリ其ノ後大使トシテ南京ニ赴任セル時ハ北支問題ノ喧シカリシ際ナリシカ張外交部長ニ對シ速ニ之ヲ處理セサレハ再ヒ滿洲事變ノ如キヲ發生セシムル危險アルコトヲ指摘セルコトアリ若シ大政治家の識見ヲ以テ大局の見地ニ立チ處理シタリシナラハ斯カル事變ヲ繰返サスシテ濟ミタルモノト察セラル今回ハ貴下ニ於テモ大局の見地ヨリ大政治家の識見ヲ以テ時局收拾ニ努力セラルルモノト信スオ話ノ通り事實ヲ以テ宣傳スル事ノ有效ナルハ勿論ナルカ過渡期ニ於テハ其ノ事實ニモ種々ノ困難隨伴スルモノナリ尤モ大方針ノ下ニ立ツ以上斯カル具体的問題ニ付テハ相互ニ誠心ヲ披瀝シ忌憚ナキ意見ノ交換ヲ遂クルコトニ依リ自ラ適當ノ途ヲ發見シ得ラルヘシ本日ハ腹藏ナ

ク思フコトヲ述ヘ合フコトト致度シ

汪、近衛聲明ニ掲ケラレタル日支ノ共同目標ハ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ三點ニアリト思考スル處右ハ支那ノ外交ニモ關連スル所ナルヲ以テ少シク支那ノ外交問題ニ付卑見ヲ述フヘシ現在蔣介石ノ外交方針ハ蘇聯トノ合作ヲ主トシ英佛米トノ提携ヲ從トシ居ルモノナルカ自分ハ之ニ反對ノ態度ヲ採ルモノナリ即チ共同防共ニ贊成ナル以上獨リ國內ノ共產黨ノ排除ノミナラス蘇聯トモ對抗の立場ニ立ツヘキハ當然ナリ英國ハ近衛聲明後蔣ノ借款ニ應シ益々緊密ナル關係ヲ維持シツツアルカ斯クノ如キハ孫文先生ノ素志ニ非ス英國ノ經濟的束縛ヨリ支那ヲ解放スルニ非サレハ支那ハ發展セサルヘシ日支經濟提携モ要ハ支那ノ經濟界ヲ支配スル英國ノ勢力ヲ排除スル爲ノ前提條件ナリト諒解ス即チ日支兩國ハ善隣友好、共同防共、經濟提携ノ三原則ノ下ニ平和ヲ維持シ共同防共ヲ以テ蘇聯ニ當リ經濟提携ヲ以テ英國ニ當ルヘキ方針ヲ採ルヘキモノト思惟ス尤モ最近歐洲ノ風雲ハ遽ニ豫測ヲ許サス一旦戰爭勃發シテ日本之ニ捲込マルルニ至ラハ日本ノ國力更ニ消耗スル

ニ非スヤト案セラル固ヨリ其ノ際ハ支那モ日本ニ從ツテ參戰スルヲ辭セサルモノナルカ出來得レハ今次ノ大破壞後ノ支那ヲ救フ爲平和狀態ヲ持續シ近代國家建設ニ專念シタキモノナリ前ニ述ヘタル對蘇、對英問題ノ解決モ平和的狀態ノ下ニ於テ實行スルコトヲ得ル次第ナリ曾テ孫文ハ支那ノ革命ハ日本ノ諒解ナクシテハ成功セスト語リタルコトアリ諒解トハ日本ニ對シテモ有利ナルモノタルヲ要ストノ意味ナリ自分ハ一九二五年廣東國民政府ノ首腦タリシ際排英運動ヲ起シ一九三一年滿洲事變ニハ支那ノ直接交渉反對ノ主張ヲ排シテ「一面抵抗一面交渉」論ヲ唱導シ其ノ後上海、塘沽兩停戰協定ヲ締結シ次テ廣田外相力議會ニ於テ日支提携ノ原則ヲ宣明セラレタル際ハ中央政治會議ニ於テ之カ受諾ヲ決議セシメ更ニ兩國大使ノ交換ヲ決定シ之ヨリ着々兩國ノ根本問題ヲ解決セント圖リシカ志遂ニ成ラス今次ノ事變トナリシ次第ナリ

有、日本ト雖モ好テ蘇聯ヲ攻撃シ進ンテ英國ト戰フト云フニ非ス出來得ル限り平和ノ間ニ事ヲ爲サントスル方針ナルコトハ唯今ノ貴下ノ意見ト同様ナリ唯日本ハ既ニ



東亞ノ新秩序建設ノ方針ヲ確定シ居ルヲ以テ舊キ秩序ハ着々之ヲ改メ新秩序ヲ樹立セサルヘカラス其ノ舊秩序即チ歐米各國カ東洋ニ於テ有スル政治上經濟上ノ特權ノ如キ逐次改廢スルヲ要シ其ノ間ニハ種々ノ磨擦ノ生スルハ免レ難キ所ナルモ國際正義ニ依リテ進ム決心ヲ以テ此ノ困難ヲ克服セサルヘカラス所謂正ヲ踏ンテ畏レサル覺悟ヲ以テ進ム次第ナリ

汪、ヨク判明セリ日支兩國緊密ニ提携スレハ彼等モ引込ムヘシ。

460

昭和14年6月15日

板垣陸軍大臣  
汪兆銘  
——會談

### 第二次板垣陸相・汪兆銘會談要旨

板垣陸相、汪第二次會談要領

昭和十四年六月十五日 自午前八時  
至同十一時半

板、支那ニ新ニ強固ナル中央政府ヲ成立セシムルニハ重慶側ノ要人及軍隊ヲ多數獲得スル必要アリト思ハルルカ之ニ對シテハ貴下ニ於テモ相當ノ成算アルモノト察セ

ラルル處之ニ付御話ヲ承ルヲ得ハ幸ナリ

汪、先ツ要人ノ側ニ付テ言ヘハ蔣介石ハ現在ノ處絶望ナリト見サルヘカラス尤モ同人ハ其ノ時ノ環境ニ從テ動ク性質ヲ有シ之迄親日ト親蘇トノ二途ヲ懸ケテ來リシモノナルヲ以テ一方ノ途ヲ全然塞キ當方ニ引着ケル工作ヲ施セハ或ハ此方ニ靡クヤモ知レス其ノ他孫科、宋子文ノ如キ蘇聯ニ接近シ居ル分子ニシテ到底引着ケ得難キ者アリ固ヨリ之等ハ少數ニシテ要人連ノ大部分ハ心中和平ヲ希望シ居ルコトハ事實ナリ其ノ主ナル者ヲ舉クレハ戴天仇ノ如キハ極メテ徹底セル反共ノ立場ヲ取り彼ノ西安事變ノ際ノ如キモ武力ヲ以テ共產軍ヲ討伐スヘキコトヲ強ク主張シ蔣歸來後モ依然トシテ共產軍ニ對スル討伐ヲ主張セル程ノ人物ニテ今回ノ事件後西康ニ赴キタルハ蔣ノ容共政策ニ嫌ラスシテ極メテ時局ヲ悲觀シタル結果ナリ唯惜シムラクハ態度消極的ナル爲進テ吾々ニ協力スルニ至ラス居正モ和平希望者ニシテ嘗テ唐紹儀在世當時和平ノ爲唐ノ出馬ヲ申送レルコトスラアリ陳立夫兄弟ハ現在ハ猛烈ナル反共論者ナリ尤モ陳立夫ハ一時國內ノ共產黨ハ既ニ其ノ勢力消滅シ



タリト誤認シ直接支那ト蘇聯ト提携スル可能性アルモノト信シ蔣ヨリ派遣セラレテ蘇聯ニ赴キ「リトヴィノフ」ト會見シタルコトアルカ其ノ後「ボゴモロフ」ト共ニ新疆ニ赴キ初メテ蘇聯ニ詐ハラレタルコトヲ覺リ驟然蘇聯トノ提携ノ危険ナルヲ知り其ノ後ハ益々反共ノ立場ヲ取ルニ至レリ其ノ他重慶政府側ノ歐米派ト稱セラルル要人ハ何レモ反共和平ニ贊成ナルコト申ス迄モナシ唯之等大部分ノ要人ハ交通ノ關係又ハ蔣ノ監視ノ下ニ在ル爲重慶ヲ脱出スルコト極メテ困難ナル狀況ニアリ容易ニ我方ニ參加シ難キモノト思惟セラルルモ一面ヨリ言ヘハ斯カル反共和平ノ分子カ多數重慶ニ殘留スルコトハ今後或ル機會ニ蔣ノ勢力ヲ分散シ一舉ニ重慶政府ヲ崩壞セシムル爲却テ其ノ必要ヲ感スルコトモアルヘク強ヒテ危險ヲ冒シテ出テ來ル必要モナカルヘシト思ハル。次ニ軍隊ノ方面ナルカ現在ノ重慶側ノ軍隊ハ之ヲ共產系、黃埔系、地方軍系ノ三種ニ分ツコトヲ得ヘシ其ノ中共產軍ハ中央ヨリ毎月八十萬元宛ノ補給ヲ受ケ其ノ他駐屯地ヨリ租稅ヲ徵收シ頻リニ宣傳組織ニ努メツツアリ之ハ今到底我方ニ獲得スルニ由ナ

シ而シテ此ノ共產軍力將來陝西、甘肅方面ニ移リタル場合ニハ恐ラク蔣ト衝突スル可能性アリ元來蔣介石ノ所謂容共政策トハ共產黨ト連絡シテ蘇聯ト合作スルモノニ非スシテ寧ロ共產黨ヲ排撃シ自ラ直接蘇聯ト提携セントスルモノニテ此ノ點ヨリ云ヘハ蔣ハ反共聯蘇ト言ヒ得ヘシ即チ蔣ト共產黨トハ何レモ蘇聯ヲ背景トシテ相對立スルモノニシテ狀況ニ依リテハ直ニ兩者ノ衝突ヲ見ルニ至ルヘシ。黃埔系軍隊ハ大部分共產黨ニ反對ナルカ抗日ノ爲敢テ反共ノ旗ヲ舉ゲ得ス若シ日支兩國ノ合作可能ナルコト彼等ニ諒解セラルレハ聽テ反共ノ旗ヲ翻スコトトナルヘシ現在黃埔系ハ陳誠ニ依リ率ヒラレツツアリ陳ハ蔣ノ信任厚ク其ノ權力極メテ大ナルカ彼ノ閱歷聲望足ラサル爲黃埔系必スシモ全部心服シ居ルニ非ス彼等カ心服シ居ル點ニ於テハ何應欽ノ方寧ロ陳誠ニ優ルモノアリ若シ何カ我方ニ來ルニ於テハ黃埔系ノ之ニ從フ者尠カラスト豫想セラル。地方軍ニ至ツテハ蔣介石ノ分散政策ニ依リ其ノ内容知悉シ難ク又嚴重ニ監視セラレ居リ敢テ行動ヲ取ルコト極メテ困難ナリ。以上ノ支那軍隊ニ付深く考慮スヘキハ彼等ノ

民族意識ノ問題ナリ彼等ノ有スル愛國心ハ之ヲ善用シテ新支那建設ノ基礎トナスヘキモノト考ヘラル。ソレテ自分カ國旗問題、政府ノ名稱問題等ヲ喧シク言フハ此ノ軍隊ノ民族意識ニ合致セシメ速ニ彼等ヲシテ和平ノ途ニ就カシメント欲スルカ爲ナリ近年支那ニ於ケル民族意識ノ昂揚ニ連レ或ハ之ヲ消滅スルニ努メタルモノアリ或ハ之ヲ利用スルモノアリ忌憚ナク言ヘハ日本ノ如キハ民族意識ヲ消滅セシメントスルヤノ疑ヲ懸ケラレ蘇聯ノ如キハ民族意識ヲ利用シテ其ノ勢力ヲ擴張セントスル爲彼等カ其ノ階級鬭爭ヲ捨テテ抗日民族戦線ノ統一ヲ「スローガン」トシテ居ルコトハ明カナリ自分ハ此ノ支那ノ民族意識ニ對シ之ヲ壓迫シ消滅セシメント圖ルコトノ誤レルヲ指摘スルト共ニ蘇聯ノ如ク之ヲ利用スルコトモ亦面白カラサルヲ信スルモノナリ日本ノ爲ニ計レハ宜シク此ノ意識ヲ善用シ即チ支那ニ民族生存ノ機會ヲ與ヘ其ノ希望ヲ殘シ置クコト最モ賢明ナル策ナリト信ス軍隊ノ話ノ序テニ御參考迄ニ申添フ次第ナリ

板、陳誠ト蔣介石竝ニ共產黨ノ關係ハ如何様ニシテ成立セ

ルモノナリヤ

汪、陳ハ浙江人ニシテ蔣ト同郷ノ關係アリ蔣カ黃埔軍官學校ヲ開設セル際招カレテ砲兵獨立營長トシテ黃埔ニ至レルモノナルカ其ノ後北伐ニ從ヒ漸次昇進シテ師長トナリ滿洲事變後ハ江西ニテ共產黨ノ討伐ニ當リテ經驗アリ軍人ノ間ニ於テハ比較的廉潔ニシテ精力家ナル爲蔣ニ信賴セラレ現在ハ殆ト軍權ヲ掌握スル程ノ權力ヲ有シ其ノ權力ノ保持ノ爲共產黨ト連絡シ居ルモノナリ然レトモ其ノ閱歷聲望足ラサル爲李宗仁、白崇禧、閻錫山等ハ心中不滿ノ念ヲ抱キ居レリ

板、世ニ所謂第三黨トハ孫科等ヲ謂フ譯ナリヤ

汪、第三黨ナル名稱ハ一九二七年ニ起リタル名稱ニテ國民黨、共產黨ノ何レニモ屬セストノ意味ニテ第三黨ト稱シタル譯ナルカ陳銘樞等ノ福州獨立事變後ハ四分五裂トナリ今日ニ於テハ所謂第三黨ナル組織ナク強ヒテ言ヘハ共產黨ノ外廓團體ト見レハ差支ナカルヘシ現在國共兩黨以外ノ黨トシテハ國家社會黨ト國家青年黨アリ。國家社會黨ハ國家社會主義ヲ標榜セル學者等ノ集リニシテ國家青年黨ハ國家主義ヲ標榜セル所謂右傾團體ト

モ云フヘキモノナリ

板、貴下ノ起案セラレタル時局收拾ニ關スル具體的便法ヲ拜見シタル處其ノ中一、二當方ノ氣付キタル點ニ付申述フルコトト致シ度シ

第一ハ中央政府ノ名稱首都等ハ中央政治會議ニ於テ決定セラルヘキモノニシテ同會議ニ於テ首都ヲ南京トシ政府ノ名稱ヲ國民政府ト稱スル様決定ヲ見ルニ於テハ我方トシテモ敢テ異議ナシ又中央政府ノ樹立ヲ政府ノ南京歸還ト云フコトニ決定ヲ見ル場合ハ之ニテモ異議ナキ次第ナリ

第二ハ國旗ノ問題ナルカ中央政治會議ニ於テ青天白日旗ヲ國旗トシテ採用スルニ決シタル場合國旗黨等モ其ノ上部ニ反共和平ト記シタル三角ノ大型ノ黃色布片ヲ附スルコトトシ軍隊ハ黃色地ニ反共和平ト大書セル旗ヲ用ヒ混淆紛爭ヲ避クル爲其ノ他ノ國旗等ヲ使用セサルコト然ルヘシトノ意見ヲ有シ居レリ此ノ點ハ如何ニ考ヘラルルヤ

汪、閣下ノ言ハルルハ軍ニ於テ國旗ト黃色旗ト兩方ヲ用フルトノ意ナリヤ或ハ單ニ黃色旗ノミ用フヘシトノ意ナ

リヤ

板、軍隊ニ於テハ黃色旗ノミ用フル方宜シカルヘシトノ意見ナリ

(此ノ時影佐大佐發言シ前回吾々支那側トノ協議ノ際ハ支那側軍隊ハ主動的ニ國旗ヲ用ヒスシテ黃色旗ヲ用フル話合トナリ居レリト述フ)

汪、黃色旗ノミヲ用フルトセハ即チ軍隊ニハ國旗ヲ使用セサルコトトナリ如何ニモ國家ノ軍隊トシテ面白カラサル体裁トナルヘシ

板、軍隊ニ於テ黃色旗ヲ用ヒシムルハ現ニ前線ニ於テハ青天白日旗ヲ掲クル抗日軍トノ間ニ戰爭繼續中ナルヲ以テ今急ニ國旗ヲ用フル時ハ混淆シテ種々ノ誤解ヲ惹起ス惧アリ斯カル間違ヒノナキ様國旗ヲ使用セサル方然ルヘシトノ意味ナリ

汪、前線ニ於テハ或ハ其ノ必要アルヘキモ前線ヲ離レタル處、例ヘハ兵營ノ如キニ於テハ國旗ヲ用フルモ差支ナカルヘシ元來軍隊ニ國旗ナキハ軍隊ノ士氣ニ關係シ面白カラサル影響ヲ與フル惧アリ長期ニ互リ國旗ヲ使用セシメスト云フコトニナレハ軍隊ノ精神の統一ヲ妨ク

ルコトナキヤヲ憂フル次第ナリ

板、軍ノ立場ヨリ言ヘハ現ニ日本軍ハ青天白日旗ヲ掲クル支那抗日軍トノ間ニ今尙戰爭ヲ繼續シ居レリ其ノ占據地帯ニ於テモ所謂游撃隊ナルモノ跋扈シ軍隊ノ敵愾心ハ此ノ旗ニ依リ生スルコトハ軍隊心理ヨリスルモ當然ニシテ實ハ日本軍占據地帯ニ於テ軍隊以外ノ政府機關或ハ一般民衆ニ國旗ヲ用ヒシムルコトニ付テスラ軍側トシテハ相當ノ困難アリ之カ爲誤解發生セサル様嚴重取締ヲナス等ノ方法ヲ取ラサルヘカラサル次第ニテ況ヤ俄カニ支那ノ軍隊ニ國旗ヲ掲揚セシムルコトハ極メテ危險ナルコト申迄モナシ其ノ點ハ前線ニ於テモ後方ニ於テモ尠クトモ軍隊ニ關スル限り國旗ヲ用フルコトハ誤解發生ノ惧アリト思惟シ居ル譯ニテ此ノ點ハ政府ニ於テモ亦軍ニ於テモ十分研究セル結果ナルコトヲ御含ミアリ度シ

汪、御話ハ能ク諒承セリ要スルニ誤解發生ヲ避ケ混淆ヲ避クルコトヲ目的トスルモノナルヲ以テ技術的ニ何等カ妙案モアルヘケレハ中央政治會議迄ニ研究シテ具體的ニ決定スルコトト致度シソレニテ差支ナキヤ

板、今後引續キ研究セラルルコトハ差支ナシ唯前述ノ通り

政府ニ於テモ軍ニ於テモ研究ノ結果只今ノ如キ案ヲ考ヘタルモノナルヲ以テ此ノ點諒承セラレ度シ

次ニ既成政府ノ名義取消シトアルハ臨時維新兩政府ノ政府ト云フ名稱ヲ廢止スルコトヲ意味シ其ノ内容及事實ヲモ取消スト云フ意味ニ非スト諒解スル處右ニテ差支ナキヤ

汪、結局權限ノ問題ナリヤ

板、權限ノ問題モ去ルコトナカラムツト具體的ニ言ヘハ政治形体トテモ言フヘキカ、政治形体ハ支那ノ狀態ニ照シ主義トシテ分治合作主義ニ則ルヲ適當ト思惟スルモノナルカ右ハ各地方ノ特殊ノ狀況ニ應シ日支ノ關係ヲ益々密接ナラシメントスルモノニシテ之ヲ具體的ニ言ヘハ北支ハ日支兩國ノ國防上及經濟上特殊ノ結合地帯ト云フヘク蒙疆ハ國防上特ニ蘇聯ニ對スル防衛ノ爲防共區域ヲナシ又揚子江下流地域ハ經濟上日支ノ聯携最モ密接ナルヘキ地帯ナリ之等各地方ノ特徵ニ應シ又日支ノ關係ノ緊密ナルニ照シ從來臨時維新兩政府ト日本トノ間ニ發生セル關係ハ之ヲ何等カノ組織ニ依リ保持

スル必要アリ更ニ南支沿岸ニハ南方ニ對スル國防上ノ必要ヨリ主トシテ海軍ノ問題ナルカ兩國ノ國防上特殊ノ關係ヲ考慮セサルヘカラス

以上ノ如ク各地方ノ特殊事情ニ依リ兩國關係ヲ密接ナラシムル爲既成政府ノ内容及事實ヲ尊重スルコトヲ希望スル譯ナリ

汪、趣旨ハ了解セリ結局中央政府ト地方トノ權限問題ニ落着ク譯ニシテ中央政府力臨時、維新兩政府ノ聯合委員會ヲ以テ組織スル場合ニ於テ又國民黨ノ一部分ト兩政府ト合体シテ中央政府ヲ作ル場合ニ於テモ何レニシテモ此ノ權限ヲ確定セサルヘカラス然ラスシテ地方ニ大ナル權限ヲ與フレハ中央政府ハ成立タサルヘク又日支提携合作ハ寧ロ中央政府力之ニ當ルコトコソ重要ナルヘシ

要スルニ中央政府ト地方トノ權限ヲ如何ニスヘキヤカ問題ナリト考フ

板、鞏固ナル中央政府ノ必要ナルコトハ云フニ及ハス又日支ノ合作ニ付テ中央政府力其ノ原則ヲ保持シテ進ムコトハ勿論希望スル所ナリ唯地方ニ對シ其ノ特殊ノ事情

ニ應スル權限例ヘハ北支ニ政務委員會ノ如キモノヲ設ケ之ニ自治ノ權限ヲ與ヘ地方的ニモ日支ノ密接ナル關係ノ下ニ發展セシムルカ如ク措置スルコト適當ナルヘシト云フニアリ

汪、國民政府ニ於テハ一九二五、六年頃北京、廣東ノ兩地ニ政治分會ヲ設ケタル例アリ然レトモ右ハ中央ノ權力不十分ナル爲ノ暫定的處置トシテ設ケタル機關ナリ今言ハルル政務委員會ハ此ノ政治分會ノ如キ意味ノモノナリヤ若シ臨時、維新兩政府ノ名稱ノミヲ廢シテ其ノ實體ヲ其ノ儘存置スルト云フナラハ中央政府ハ有名無實ノモノトナリ又事實中央ト地方トハ常ニ權限爭ヒヲ起シ容易ニ時局ヲ收拾シ難カルヘシ若シ兩政府ノ實體ヲ殘ス必要アリトセハ中央政府ノ組織ヲ延期シ國民黨ハ別個ニ一ノ地盤ヲ以テ一政權ヲ形成シテ他日ニ備ヘ時機ノ到ルヲ待チテ中央政府ノ組織ニ進ムヨリ外ナシ（影佐大佐發言、此ノ前協議シタル時ハ貴下ハ速ニ中央政府ヲ作ルコト時局收拾ノ爲必要ナリト言ハレタルニ今日之ヲ延期スルコト然ルヘシト述ヘラレタルカ中央政府ノ組織ヲ延期シ國民黨カ他ニ一地盤ヲ擁シテ工

作ヲ進ムルト云フカ如キ方法ニテハ到底重慶政府ニ對抗スル能力ナカルヘク今日斯ル新タナル案ヲ提出セラレタル意味何處ニアリヤト質問ス

汪、中央政府ノ組織ヲ急カサル方可ナリト言ヒタルハ兩政府ノ取消困難ナリトノ話ニ依リ然ラハ政府ノ組織ヲ延期スル以外ニ途ナシト考ヘタルカ爲ナリ

(影佐大佐 時局收拾ノ爲ナラハ矢張り中央政府ノ組織ヲ急ク方可ナルヘシ結局問題ハ中央ト地方トノ權限ヲ研究スレハ宜シキニ非スヤト述フ)

汪、政務委員會ノ權限大ニ過クル時ハ必ス中央ト衝突シテ政務ニ支障ヲ來スヘシ

板、勿論地方政府ヲシテ中央政府ト拮抗セシムルカ如キ大ナル權限ノモノトナサシムル意味ニ非ス當然中央政府ノ下ニ就キ相當ノ權限ヲ與フレハ足リルヘキモノナリ更ニ前述ノ事實ノ尊重トハ維新政府、臨時政府ハ戰局ノ發展ニ伴ヒ發生シテ日本側トノ間ニ既ニ種々ノ既成事實ヲ作り地方經濟開發ニ關スル機關等モ實現シ居ル譯ニテ事實ト云フハ斯ル既成事實ヲ指スモノナリ此ノ事實ハ其ノ性質ニ依リ或ハ中央ニ歸屬スルモノモアル

ヘク或ハ其ノ儘地方ヲシテ當ラシムルモノモアルヘシ何レニスルモ此ノ種日本トノ間ニ發生セル既成事實ヲ尊重スヘシト云フニアリ飽ク迄兩政府ノ組織ヲ其ノ儘殘スト云フ意味ニハ非ス

汪、華北ハ其ノ特殊事情ニ基キ政務委員會ノ如キヲ設ケ之ニ比較的大ナル自治ノ權限ヲ與フルコトハ差支ナシ唯中支ニ於テハ現在ノ維新政府ヲ如何ナル形式トナスヤ一大問題ニシテ例ヘハ假ニ經濟委員會ノ如キモノヲ作ルトセハ吾人ハ既ニ國民政府時代全國經濟委員會ト鐵道、交通、實業、財政各部ト常ニ其ノ權限ヲ爭ヒ非常ナル混雜ヲ來セル經驗アリ要スルニ中央ト地方トノ權限ヲハツキリセサレハ對外的ニハ何處ニ交渉シテ宜シキヤ迷フ場合起ルヘク内部的ニハ常ニ權限爭ヒニテ衝突スヘシ只今ノ御話ニテ大臣ノ言ハレタル趣旨ハ十分了解シタルヲ以テ右趣旨ニ基キ更ニ具体案ヲ研究致シ度シ

板、結構ナリ

次ニ中央政府ノ樹立ニ付テハ其ノ構成及樹立ノ時期等各種ノ事情ヨリ日本側トモ密接ニ連絡ノ上決定セラル

ルヲ適當ト思惟スルモ斯ル含ミニテ差支ナキヤ

汪、然リ當然密接ニ連絡シテ行クヘシ

板、次ニハ外交ノ問題ナルカ中央政府樹立宣言前國民政府カ外國ニ對シテ締結セル條約、協定等ハ日支ノ新關係及新中央政府ノ指導方針ニ照ラシ十分檢討シタル上其ノ適當ナラサルモノニ對シテハ適宜之ヲ廢止又ハ修正セラルヘキモノト了解シテ可ナリヤ固ヨリ第三國ノ正當ナル權益ヲ濫リニ排撃セヨトノ趣旨ニハ非ス

汪、從前國民政府ノ締結セル條約、協定ニ對シ中央政府樹立宣言前ノモノヲ一應承認スル立前ヲ取ルコトトシタルハ之等條約、協定ヲ一方的ニ改廢シテ國際上ノ紛糾ヲ生シテハ面白カラスト考ヘタル結果ニシテ日支ノ新關係及新中央政府ノ指導方針ニ反スルカ如キモノニ對シ適當ナル方法ニテ之ヲ廢止又ハ修正スルコトハ勿論考慮シ居ル所ニテ大臣ノ言ハルル點ニ贊成ナリ

板、次ニ中央政府樹立迄ノ工作ニ關シテ今後臨時、維新兩政府ノ行政區域内ニ於テ工作スル必要生スレハ申出ニ依リ其ノ工作ノ可能ナル様日本側ニ於テ斡旋シテ差支ナシ尙又國民黨全國代表大會ノ開催ノ地點ハ南京ヲ避

クルコト然ルヘシト思惟セラルル處如何

汪、異議ナシ

板、本日ハ大体重要ナル問題ニ付了解ヲ遂ケタルハ欣快ナリ最後ニ一言致シ度キハ日本側ニ於テハ貴下ノ決意ニ對シ全幅的ノ信賴ヲ以テ之ニ贊同スルモノニシテ中央政府樹立ノ努力ニ對シテハ出來得ル限りノ援助ヲナス決心ナル旨此ノ機會ニ重ねテ申上ケ度シ從テ蔣介石ニ對シテ別ニ和平工作ヲ進ムルカ如キコトハ絕對ニ考慮シ居ラス其ノ他孫科等反共ニ徹底シ得サル輩ニ對シテモ毫モ連絡ノ意ナキコトハ言フ迄モナク蔣介石ハ今次事變勃發ノ責任ヲ負ヒテ當然下野シテ然ルヘキモノト思惟シ居ル次第ナリ

汪、感激ニ堪ヘス此ノ機會ニ貴意ヲ得度キハ客年十二月二十九日ノ通電中ニ迅速且普遍的ニ日本軍ノ撤退ヲ希望スル旨ノ文句アル爲右ハ近衛聲明ト一致セストテ各方面ニ誤解シ居ル向モアル由ナルカ同通電中ニハ特ニ「協定地點ヲ除ク外」トアリ別ニ其ノ後ノ具體的辦法中ニハ其ノ撤退ノ時期ト方法ニ付詳細ナル意見ヲ掲ケ居リ決シテ近衛聲明ト矛盾シ居ラサル次第ナルヲ以テ



斯ル誤解ナキ様了解ヲ願ヒ度シ

板、承知セリ離國前ニ若シ機會アラハ更ニ懇談致シ度キモ其ノ機會ナクハ具體的問題ニ關シテハ影佐大佐ヲ介シテ御傳ヘスルコトト致スヘシ

461 昭和14年6月16日 五相會議諒解

「中國側ノ提出セル時局收拾ニ關スル具體的  
辦法及日本側意見」

昭和十四年六月十六日

五 相 會 議 諒 解

中國側ノ提出セル時局收拾ニ關スル具體的辦法及  
日本側意見

目 次

- 第一、各黨派、既成政府等トノ折衝
- 第二、國民黨全國代表大會
- 第三、各既成政府及各黨派ノ決議
- 第四、中央政治會議ノ召集
- 第五、中央政府ノ樹立

第六、本辦法ニ關スル日本側ノ意見 （對カ）

第一、各黨派、既成政府等トノ折衝

一、汪氏日本ヨリ歸國後先ツ臨時、維新兩政府主腦者、吳佩孚氏等各方面ト折衝ヲ開始ス

第二、國民黨全國代表大會

一、汪氏ハ適宜國民黨臨時全國代表大會籌備委員會ヲ組織シ代表大會ノ召集ヲ籌備ス

二、次テ臨時全國代表大會ヲ召集シ次ノ如キ決議ヲ爲ス

1. 汪氏ヲ本黨總裁ニ推舉スルコト

2. 汪氏ニ授權シ同志中ヨリ中央委員ヲ指定スルコト

3. 中央執行委員會ニ授權シテ總章ヲ修改セシムルコト

4. 國民黨ノ政綱及政策ヲ新ニ制定スルコト

5. 重慶組織ハ既ニ共產黨ニ劫奪セラル仍テ爾後其ノ一切ノ措置及文告ハ總テ無効ナルコトヲ宣言スルコト

6. 左記三項ヲ以テ國民黨ノ最高指導方針トスルコトヲ宣言スル

宣言スル

甲、三民主義ヲ實行シ中華民國ヲ復興ス但三民主義ヲ時代ノ進歩ニ應スルト共ニ孫文先生ノ素志ニ復活ス



ル如ク説明ヲ新ニス

乙、共產主義ノ思想行動及一切ノ組織宣傳ヲ徹底の二  
肅清ス

丙、善隣結合以テ東亞ノ和平ヲ樹立ス（註、中央政府  
滿洲國ヲ承認セハ日滿支三國カ善隣トシテ結合スヘ  
キヲ明示ス）

7. 國民黨以外ノ黨派ニシテ其ノ主張公正ナルモノハ之  
ト提携スルコト

8. 中央政府ハ國民黨ノ一黨專制ヲ排シ各黨派ヲ網羅シ  
全民の基礎ノ上ニ之ヲ構成スルコト

9. 汪氏ニ授權シ中央政治會議ヲ組織スル爲メ各既成政  
權及各黨派等ニ通告シ協力ヲ要請スルコト

三、汪氏ハ國民黨總裁トシテ所要ノ聲明ヲ發ス

第三、各既成政府及各黨派ノ決議

各既成政府及各黨派ハ國民黨全國代表大會ニ準シテ閣議、  
聯合委員會又ハ各黨派大會等ヲ開催シ國民黨全國代表大會  
ノ要請ヲ受諾シ左ノ件ヲ決議ス

1. 中央政治會議ハ各既成政府及各黨派ヲ網羅シテ組織  
スルコト

2. 汪氏ニ要請シ中央政治會議ヲ召集スルコト

3. 中央政治會議ニ適當ノ人員ヲ出席セシムルコト

第四、中央政治會議ノ召集

一、汪氏ハ各政權、各黨派ノ要請ニ依リ中央政治會議ヲ召集  
ス

二、中央政治會議ハ左記件名等ヲ決議ス

1. 中央政府ノ樹立ニ關スル件

2. 中央政府ノ政綱、政策ニ關スル件

3. 中央政府ノ名稱、首都及構成ニ關スル件

4. 國旗ニ關スル件

5. 各黨派ノ公認、既成政府ノ名義取消ニ關スル件

6. 地方制度、地方自治ノ程度等ニ關スル件

7. 其他

第五、中央政府ノ樹立

一、中央政府樹立ト同時ニ既成政府ハ所要ノ聲明ヲ發シ自ラ  
政府ノ名義取消ヲ爲ス

二、中央政府ハ國策ノ改變ヲ宣言ス即和平建設、親隣反共ヲ  
以テ指導方針ト爲シ過去公布セル法令ニシテ本方針ニ違  
反セルモノハ夫々之ヲ廢止或ハ修正ス

三、中央政府樹立ト共ニ日支新關係調整ニ關スル原則ヲ確認シ所要ノ宣言ヲ爲ス

四、中央政府樹立宣言後重慶組織ノ國內ニ對シテ發佈セル法令規章及外國ニ對シテ締結セル條約協定ハ總テ無効トス

五、中央政府ハ次ノ事項ヲ公佈ス

重慶及各地地方ノ公務人員ハ本件公布後半年內ニ歸京スヘシ歸京者ニ對シテハ原級原俸ヲ以テ任命ス但確實ナル證明ヲ提示スルヲ要ス

六、中央政府ハ前線各軍ノ停戰ヲ命令ス命令ヲ奉シテ停戰セルモノハ區ヲ分チテ移駐セシム命令ヲ奉セサルモノアラハ之ヲ嚴懲ス

七、中央政府ハ各地遊擊隊ニ對シ各現地ニ於テ待機シテ點驗收編ヲ受クヘク隨意ノ行動及現地ヨリ何物ヲモ求ムルコトアルヘカラサル事ヲ命令ス本命令ニ違反スルモノニ對シテハ之ヲ剿滅ス

八、日本ト善隣結合、平等互恵以テ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シ正式ニ國交ヲ調整シ永久和平ノ基礎ヲ奠ム九、日本大使館ハ中央政府樹立後直チニ首都ニ歸駐スルト同時ニ獨伊英米佛等各使館ニ對シテモ成ルヘク速ニ歸駐セ

シムル如ク努力ス

十、一定ノ期限ヲ定メテ國民會議ヲ召集シ憲政ヲ實行ス

第六、本辦法ニ對スル日本側ノ意見

一、本辦法概ネ異存ナシ

二、中央政府ノ名稱、首都等ハ中央政治會議ニ於テ決定セラレヘキモノニシテ該會議ニ於テ首都ヲ南京トシ又ハ中央政府名義ヲ國民政府ト稱シ或ハ中央政府樹立ヲ中央政府ノ南京歸還ト謂フコトニ決定ヲ見ルニ於テハ日本側トシテモ敢テ異議ナシ

三、國旗ハ中央政治會議ニ於テ決定セラルヘク該會議ニテ青天白日旗ヲ採用スルニ決スル場合ニ於テモ國旗、黨旗及軍旗ハ其ノ上部ニ「反共和平」等ト明瞭ナラシメタル三角大型黃地布片ヲ附シ特ニ軍隊ハ黃地ニ「反共和平」等ト大書セル旗ヲ掲揚シ軍旗等ハ混淆紛爭ヲ避クル爲臨時の措置トシテ自發的ニ中國軍側ニ於テ有效適切ナル處置ヲ講スルコトヲ期待ス

四、「既成政府ノ名義取消」トアルハ「既成政府ノ政府ナル名稱ノ廢止」ト解ス

註、「名稱ノ廢止ト解スル」所以ハ「名義取消」トセハ

既成政府ト日本トノ協定其他ノ取極ヲモ取消ス義ト  
解スル虞アルヲ以テナリ、機構ヲ存續セントスル意  
味ニ非ス

五、臨時、維新兩政府ノ政府名稱廢止ニ就テハ中央政治會議  
之ヲ決定スヘク然ル上ハ日本側トシテモ異存ナシ

但シ支那將來ノ政治形態ハ支那側ノ內政問題トシ日支ノ  
關係ニ關シテハ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シ北  
支ヲ國防上及經濟上（蒙疆ハ特ニ高度ノ防共自治區域）又  
揚子江下流地域ヲ經濟上ノ日支間ノ緊密ナル結合地帶ト  
シ南支沿岸特定島嶼ニ特殊地位ヲ設定スルモノトシ且既  
成政權ニ對スル我特殊關係ヲ充分ニ尊重セシムルモノト  
ス詳細ハ更ニ交渉取極ムルモノトス

六、中央政府ノ樹立ニ付テハ人的要素及基礎の實力ノ具備ニ  
關シ特ニ考慮ヲ望ム

七、中央政府樹立宣言前ニ於テ國民政府ノ外國ニ對シテ締結  
セル條約協定等ハ日支ノ新關係及新中央政府ノ指導方針  
ニ照シ適宜廢止又ハ修正セラルヘキモノト諒解ス

（但シ第三國ノ正當ナル權益ヲ濫ニ排撃スルノ趣旨ニハ  
非ス）

八、中央政府樹立迄ノ間臨時、維新兩政府ノ行政區域ニ於ケ  
ル工作ニ關シ要スレハ日本側ニ於テ必要ノ斡旋ヲ行フコ  
ト差支ナシ

但シ國民黨全國代表大會ノ開催地ハ南京ヲ避クルヲ可ト  
ス

九、中支ハ揚子江下流地域ヲ經濟上ノ日支間ノ緊密ナル結合  
地帶トスルニ於テハ中央政治會議ニ於テ中支ニ委員會ヲ  
設ケサルコトヲ決定スルモ日本側トシテ異存ナシ

